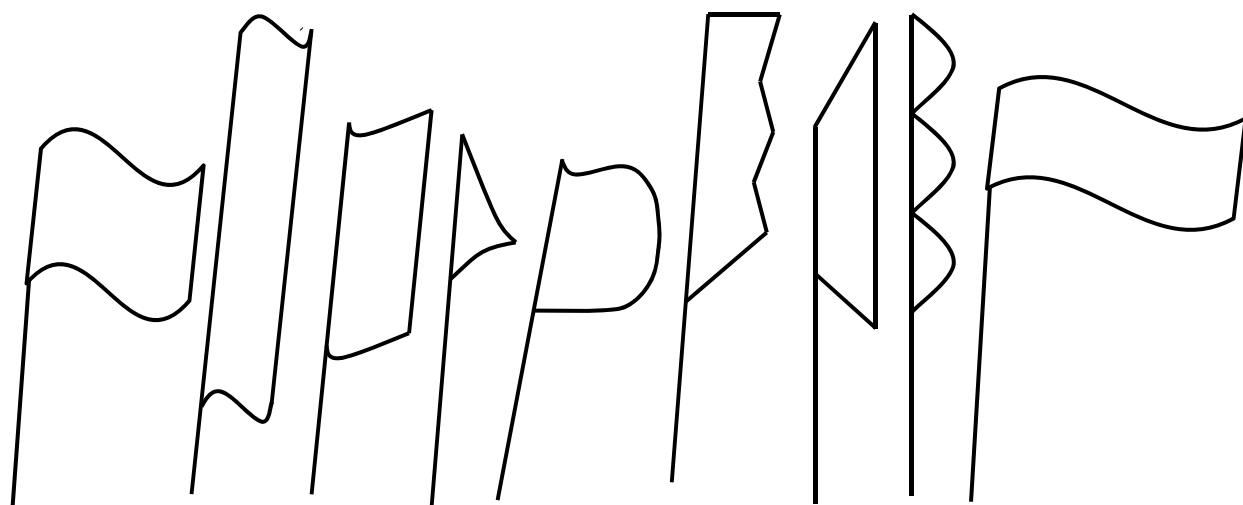


# ヒューマンエラー 対策事例集

～安全行動調査の活用～



中央労働災害防止協会

ヒューマンエラー対策事例集 ～安全行動調査の活用～  
目次

はじめに.....	3
事例 1 .....	4
①個人目標設定    ②日常指導    ③小集団 ④KYT            ⑤TBM            ⑥前回比較改善	
事例 2 .....	10
①個人目標設定    ②小集団    ③日常指導 ④TBM            ⑤安全衛生教育	
事例 3 .....	15
①個人目標設定    ②日常指導    ③小集団	
事例 4 .....	21
①安全衛生教育    ②小集団    ③日常指導 ④個人目標設定    ⑤KYT            ⑥TBM    ⑦ヒヤリハット	
事例 5 .....	26
①KYT            ②日常指導    ③個人目標設定	
事例 6 .....	33
①個人目標設定    ②小集団	
事例 7 .....	37
①個人目標設定    ②KYT            ③TBM	
事例 8 .....	41
①KYT            ②個人目標設定	
事例 9 .....	48
①個人目標設定    ②KYT	

## はじめに

本冊子は、中央労働災害防止協会が開発した安全行動調査を活用している事業場の取組事例をまとめたものです。

各事業場の活用方法には共通点も多く見られますが、業種や職場風土等の相違もあり、それぞれに創意工夫をして各種の方法を組み合わせ実施していることがわかります。これらの事例を参考にして、この調査を効果的にご活用いただき、労働災害の防止にお役立ていただけると幸いです。

なお、目次及び各事例の見出しには、活用方法の内容が一目でわかるように、下表に示す略称を各事例の活用の比重が高いものから順に記載していますのでご参照ください。

活用方法の略称一覧

活用方法の区分	事例タイトルに用いる略称
1 日常的な教育、指導の充実	日常指導
2 TBMの活性化	TBM
3 小集団活動への活用	小集団
4 危険予知活動への活用	KYT
5 ヒヤリハット活動への活用	ヒヤリハット
6 災害調査への活用	災害調査
7 新入社員等の安全衛生教育の充実	安全衛生教育
8 個人目標設定による安全活動の実施	個人目標設定
9 安全行動調査結果の前回比較に基づく改善	前回比較改善

事例 1	活用方法：①個人目標設定 ②日常指導 ③小集団 ④KYT ⑤TBM ⑥前回比較改善
------	---

## 1 事業場の概要

- (1) 主要製品： 石油化学製品 記憶材
- (2) 労働者数： 総数 1,720人 (男性 1,550人 女性 170人)
- (3) 作業特性： ①自動機械による生産 ②監視作業 ③交替制勤務  
④一人で多くの機械を操作すること

## 2 安全行動調査実施の背景

当事業場の安全衛生成績は、労働災害件数こそ減少しているものの、回転機器への挟まれ・巻き込まれ、有害物との接触等のような労働災害が依然として発生しており、決して満足できるものではない。発生した労働災害の内容を見ると、不注意、不安全行動等人に起因するものが多く、基本的な実施事項の順守や安全行動を取ることが十分にはできていない面が見受けられた。

労働災害を防止する上で、設備等の面と人の面の両方から対策を立てることが重要であるが、とりわけ人の面においては、労働災害の発生が作業員個人の安全に対する意識にもよるところが大きいということを考えると、各個人の意識、性格にまで踏み込んだ対策も必要となる。しかしながら、従来の労働災害防止活動は、どちらかというとならざる画一的な活動であり、作業員個人の特性を考慮に入れた活動ではなかった。

そこで、今回、安全行動調査を行うことにより定量的に明らかになった作業員個々人の特性を自他ともに認識し、不注意、不安全行動による労働災害の防止に役立てることとした。

## 3 安全行動調査実施決定までの経緯

安全行動調査の実施については、まず当事業場の「環境安全衛生推進要綱」の中で、安全基本行動の実践として安全行動調査の実施とその活用をうたい、これにより事業場内の意思統一を図った。

当事業場では、ある部所で5年前に同じ調査を実施しており、また、同種の調査として交通の適性検査を社員全員を対象に実施していることから、今回の安全行動調査の実施については、経営幹部の了解を得ることは特に問題なくでき、また労働組合に対しても安全衛生委員会で説明してその了承が得られた。

## 4 安全行動調査実施の目的

労働者（管理監督者を含む。）各個人の特性を客観的かつ定量的に把握することにより、労働者本人では気が付かなかった自分の一面を認識して、意識的に弱点を補い安全行動

を实践し、また、労働者がお互いに、それぞれの特性を認識し、注意・助言し合うことにより、作業行動災害を防止することを目的として安全行動調査を実施することとした。

## 5 安全行動調査結果の活用

### (1) 個人目標の設定

安全行動調査の実施結果を基に労働者個々人の行動目標を設定し、それを各労働者が実践するやり方である。労働者各個人について把握されたエラー傾向、パーソナリティ傾向に基づく行動目標を設定し、その達成に向け実践することを通じて意識的に安全行動を取るようにすること（行動目標実践）をねらいとして実施した。

### (2) グループによる相互是正等

グループ内で労働者各個人の安全行動調査結果を公表することにより、安全行動を取るようお互いに注意、助言し合うことや管理監督者が労働者に安全行動を取るよう指導すること（日常指導）に役立てた。また安全行動調査の結果について事業場全体の傾向とグループの傾向とを比較して、どこにどのような違いがあるかを認識した上でグループとしての意識的な安全行動の実践を行った。これを実施した職場において作成したグラフを図1に示す。

なお、このグラフの数値は、事業場全体及びグループのいずれについてもこの調査を受けた労働者についての単純平均値である。ただし、事業場全体の場合、このグループを除いて計算している。

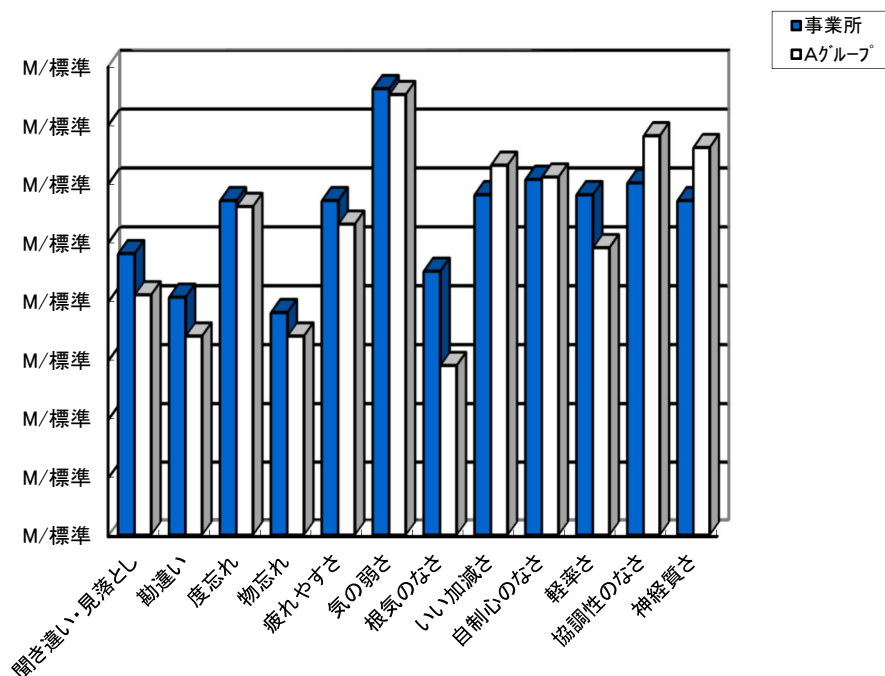


図1 Aグループと事業場との安全行動調査結果の比較

## (3) 個人安全宣言の実践

安全行動調査の実施結果を基に、労働者個々人が「私のウィークポイント」とそれに対する安全宣言を一覧表(表1)にまとめ、労働者が相互に特性を認識することにより、安全行動の実践に役立てた。

表1 個人安全宣言

氏名	私のウィークポイント	安全宣言
A	① 慣れを過信するきらいがある。 ② 自己抑制型で積極性に欠ける。	○ 手抜きをしないでチェックを確実に行う。 ○ 積極的に発言、行動する。
B	① 感情的に不安定な状態で行動する。	○ 落ち着いて行動する。 (一呼吸入れて行動) ○ 指差呼称して行動する。
C	① エラー発生が少ない結果となっている。 → 結果を見て油断しがちとなる。	○ 運転中油断をせず、常に安全を認識してハンドルを握る。
D	① 自己防衛心が強い。 ② 根気のなさ。	○ 何事もありのまま行動しよう。 ○ 物事の考え方も少し徹底するようにする。
E	① 緊張した後の一安心後に無意識状態でミスする心配あり。	○ どんな時でもチェックと確認を確実に行うようにする。
F	① 相手の話を聞くと同時に感情的になる。 ② 自分の意見を出すのが消極的である。 ③ 点検・確認が能動的でない。	○ 相手の気持を考え、冷静に聞き取る。 ○ 自分の意見をまとめた上で発言する。 ○ 事前にポイントを考え行動する。
G	① 忙しが増すと感情が高ぶり、いらいらした状態になりやすく、省略行為や独断的行動に走りやすい。	○ 作業前の一呼吸を肝に銘じ、もう一度これからやる作業の安全性を確認する。 ○ 流れにまかせた行動厳禁。
H	① 考える前に行動が先行する傾向あり。	○ 作業前には一呼吸入れて落ち着いて行動する。

## (4) 定期的な面接によるフォローアップ

個人目標の設定、個人安全宣言の実施に対するフォローということで、年1回の職制の面接時にこれらの実践活動についての実施結果を活用し、労働者個々人に対する指導等を実施した。

## (5) 自己管理チェックリストによる自己診断等

自己管理チェックリストを作成し、このリストに安全行動調査結果を基に「個人宣言」を労働安全と交通安全について行い、その宣言に対して各月ごとに点数を付けて自己診断をした（KYT）。また、このリストの活性度項目について、課で決めた項目と各人が設定した項目についても自己診断をした。職場によっては2ヶ月に1回上司がコメントを記入することにより、お互いの意思疎通を図りながら自己管理を実践した。職場で使用している自己管理チェックリストは表2に示すとおりである。

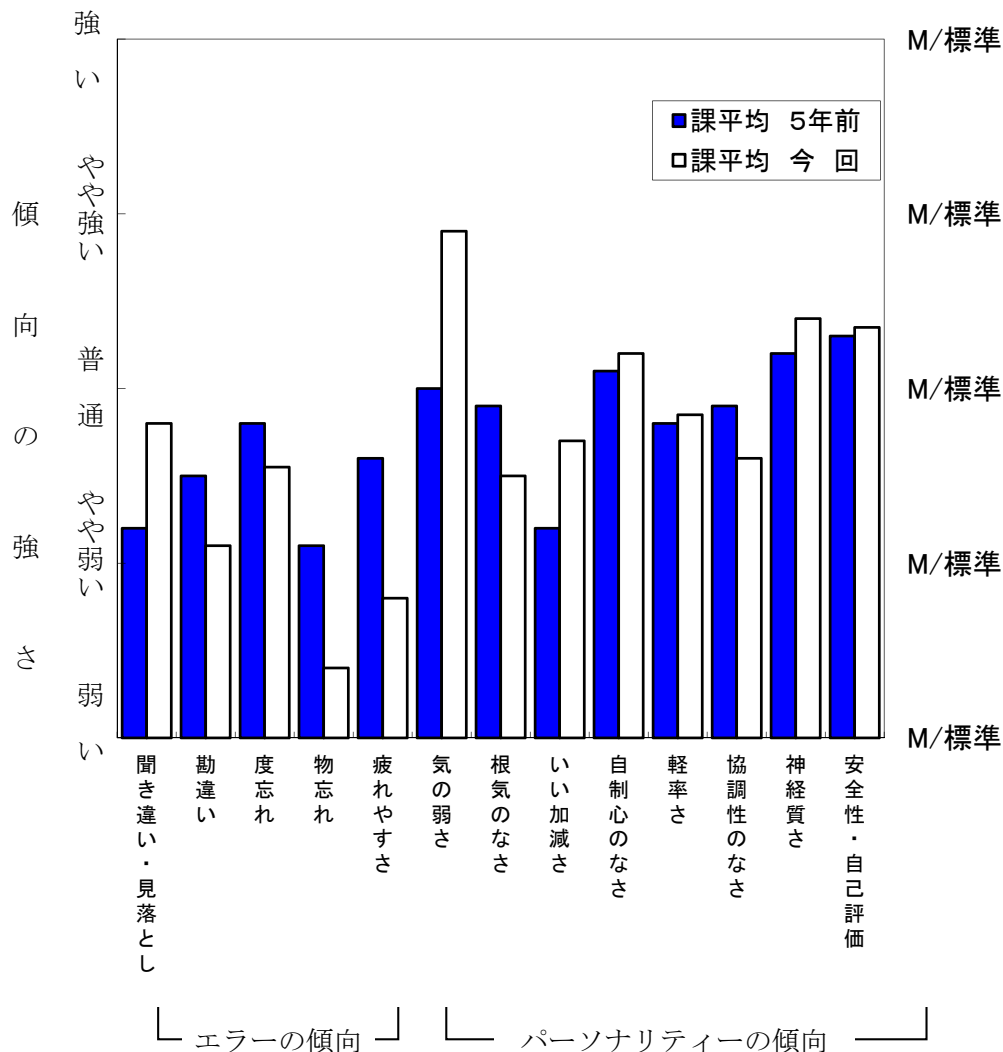
表2 自己管理チェックリスト

項目		月	
		7月	8月
個人宣言	安全： 1人KYの実施	5	5
	交通： スピード控えめ	5	5
活性度項目	1 健康（心身）管理	4	4
	2 提案／H, H／交通H, H	(25, 3, 0)	(14, 0, 1)
	3 安全作業（KY, TBM）	5	5
	4 課推進目標	5	5
	5 TPM活動時間 時間内／時間外	8, 0	7, 0
	6 レベルアップ項目推進目標		
	ハイウェー異常時の処置	4	4
コメント欄	本人	自己目標は、ポケットブックにメモったところで足踏み。小集団活動進まず。	
	班長	毎日の積み重ねです。何とか時間を見つけがんばってください。	
	主任	色々な作業が入り小集団活動が思うように進まなかったが、時間を見つけ、進めていきましょう。	
	課長	小集団活動はやる気を出さないとこのままズルズルになりますよ。	

(6) ある課の安全行動調査結果の相互比較に基づく改善

ある課においては、この調査を5年前にも実施しているので、今回で2回目の実施となった。前回と今回の両調査結果を比較、解析の上、悪くなっている項目について改善策を検討し、課の安全活動に反映させた(図2参照)。「聞き違い・見落とし(受容・確認エラー)」と「気の弱さ」については、前回に比べてその傾向がいずれも強くなっており、悪化した項目である。「聞き違い・見落とし」については、早合点の人が増加していると考えられ、その対策として作業KYカードを作成し、「聞き違い・見落とし」による労働災害防止を図った(KYT)。また、「気の弱さ」については、意見を述べる場を作ることを対策の一つとして決め、各班ミーティング時に30秒スピーチを実践した(TBM)。

図2 前回と今回の調査結果の比較





## 6 活用の効果

安全行動調査結果の活用を始めてから未だ日が浅いため、目立った効果は現れていないが、各課において具体的な活用を継続して行うことにより、今後、成果が上がってくるものと期待している。

## 7 今後の展開

ヒヤリハットや災害事例の解折に対しての安全行動調査結果の活用は、未だあまり実施されていなく、今後の課題として取り組んでいく必要がある。また、数年後に再度、安全行動調査を行い、今回の結果と比べてどのように変化したかを確認したいと考えている。

事例2	活用方法:①個人目標設定 ②小集団 ③日常指導 ④TBM ⑤安全衛生教育
-----	--------------------------------------

## 1 事業場の概要

- (1) 主要製品： 各種冷暖房機器
- (2) 労働者数： 総数 2,160人(男性 2,009人 女性 151人)
- (3) 作業特性： ①自動機械による生産 ②人手による流れ作業 ③立ち作業  
④一人で多くの機械を操作すること

## 2 安全行動調査実施の背景

当事業場ではここ10年間ほどは設備等自体の改善や事前安全衛生チェック制度の徹底で「設備等に起因する災害」は大幅に減少したが、当社でいう『行動災害』が減少しておらず、発生した労働災害の大半を占めるに至っており、その防止対策に苦慮していたところであった。製造部門を中心とした小グループ活動(KY活動)もマンネリ気味であった。

そこで当時、全国産業安全衛生大会(東京)において早稲田大学・黒田勲教授がされた講演の中で「作業行動の安全化」について研究、検討されていることを知り、その発表に感銘を受けた。その後、直ちに中災防にコンタクトし、「安全行動調査」の実施についての希望を伝えた。

## 3 安全行動調査実施決定までの経緯

### (1) 関係者における合意形成

当事業場の安全衛生活動をラインで具体的に推進させるためのスタッフの会議としてゼロ災推進委員会がある。まず、このメンバーに対し安全スタッフから安全行動調査の内容を説明し、新しい管理手法であることを認識してもらい、その導入検討についての同意を得た。また、安全行動調査の試行を行うこととし、そのためモデル職場を選定の上、これを実施した。

### (2) 安全行動調査実施の決定

#### ア トップの内諾取付け

事業場のトップに対しては、安全衛生委員会の議題として、事前に安全行動調査の実施及びその結果の活用について次のとおり説明した。

- (ア) 「行動災害」防止の新たな取組みであること。
- (イ) 労働者個々人に対してインパクトを与え得る取組みであること。
- (ウ) その実施結果の活用が大事であること。

これに対し、トップである所長から、まず「やってみなさい」との前向きな発言とともに、従来の性格テストとの違いについての質問があり、この調査手法の開発された背

景・ねらい及び他社の試行結果を説明して納得を得た。

#### イ 事業場安全衛生委員会での合意

安全衛生委員会では、安全行動調査の実施について説明し、その導入を提案した。

この委員会での審議結果は、次のとおりであった。

- (ア) 従来から行われている性格テスト及び交通事故防止のために行われている運転適性検査との相違について質問があり、本調査手法の開発された経緯とねらいとともに、この調査を行う目的が労働災害防止にあることを説明し、理解を得た。
- (イ) この調査結果が「作業行動の安全化」以外の目的で使われることに対する懸念が、特に労働組合側から示されたが、本調査の目的をはっきりさせ、特に監督者に対し目的以外に利用しないことを徹底することを確認して了解が得られた。

### 4 安全行動調査の目的

当事業場においては安全行動調査の導入を次の目的のために行うこととした。

- (1) 安全行動調査結果について、この調査を受けた本人に対して与えるインパクト及び日常安全指導への活用可能性（体力診断テストと同じように）を知ること。
- (2) 安全行動調査結果について、その妥当性・客観性及びこの調査を受けた本人のみならず第三者も理解し得るのかどうかを知ること。
- (3) 労働災害を繰返し経験している労働者について安全行動調査を実施した場合、その調査結果から認められた傾向と本人の災害繰返しとの相関の有無を知ること。
- (4) 事業場内の労働災害防止のみならず、広く事故災害防止の観点から交通事故防止にも安全行動調査結果を活用できるのかどうかを知ること。

### 5 安全行動調査の実施

スタッフが所属長とともに全国安全週間の初日に安全行動調査の趣旨と目的を労働者全員に説明し、また各職場の監督職の者には事前に説明をしておいたので、時期的に大変良いタイミングとなり、どの職場においてもこの調査を受ける労働者は真剣であったから、安全行動調査票への記入がスムーズに運んだ。

また、これには、既に長年実施しているTHI（東大方式健康調査; Today Health Index）健康調査の実績が役立ったようである。

### 6 安全行動調査の実施結果

本調査の実施結果が中災防から届いた後、早速、本調査を実施した職場にその実施結果を提供した。その内容についての主な意見、反応は次のとおりであった。

- (1) この調査を受けたほとんどの労働者についてエラー4項目、パーソナリティ8項目及びコメントに妥当性があった（いわゆる当たっていた）こと。
- (2) 本人が自覚していないエラー、パーソナリティ傾向（いわゆる弱点）があったこと。

- (3) この調査結果から分かった傾向（特性）と上司・同僚が見ていたものとの間に差異が認められたこと。

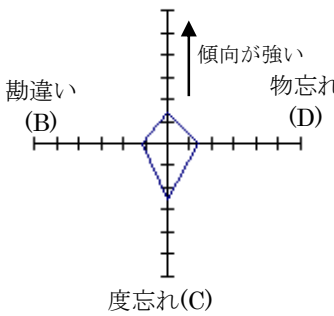
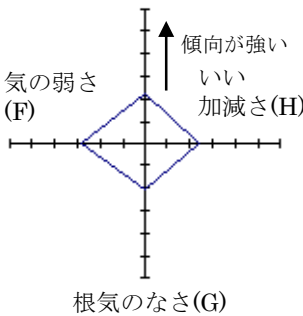
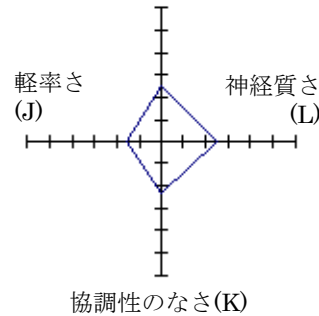
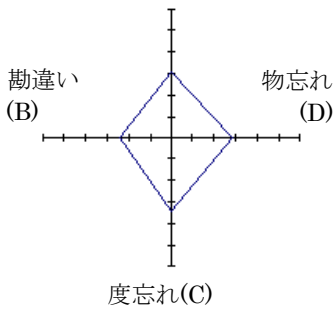
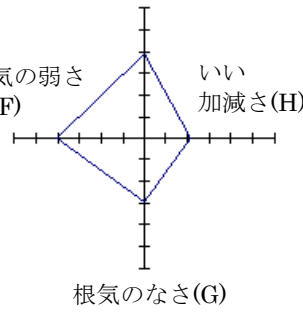
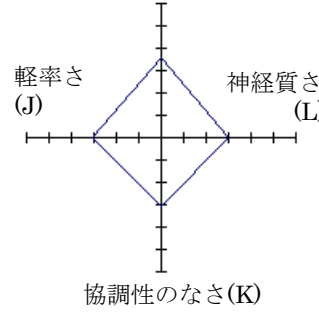
## 7 安全行動調査結果の活用

当事業場においては、安全行動調査結果の具体的な活用は、「表1 安全行動調査結果活用ステップ」に示す方法により行った。

表1 安全行動調査結果活用ステップ

ステップ	実施項目	ねらい	ポイント
第1R (調査結果の活用討議)	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 管理・監督者会議開催</li> <li>第2回 管理・監督者会議開催</li> <li>課朝礼にて結果返却のPR</li> </ul>	<p>調査結果の理解と共有化を図る。</p> <p>第1回会議の宿題である部下の調査結果について意見交換。</p> <p>自分の弱点を素直に受け入れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部下全員の調査結果とコメントをよく読んでもらうこと。</li> <li>監督者のレベル差で理解度と活用しようという意欲の差が、一部表面化した。</li> <li>この結果は成績査定等には一切関係ないことを強調する。</li> </ul>
第2R (調査結果の公開)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各小集団活動グループ単位で個人の結果を公開。</li> </ul>	小グループメンバーがお互いに分析結果を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>上司が1番先に自分の結果をオープンにする。これによりグループミーティングも、うまく進められた。</li> </ul>
第3R (個人宣言)	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査結果をもとに、自分の弱点を是正できる行動目標を決めさせる。それを、『私の宣言』としてワッペン全員着用。</li> </ul>	夏期3ヶ月にわたり実施。自己啓発を図る。	<p>『私の宣言』の内容で抽象的な表現はやめ、<u>他の人からよく見えるモノサシ</u>に途中で変更させた。</p> <p>(例) 軽率さの傾向強い人 ↓ 階段を2段とびしない。</p>
第4R (調査結果の集計)	<ul style="list-style-type: none"> <li>小集団グループごとに4エラーと8パーソナリティーのデータ数値(平均値)を集計した(図1参照)。</li> </ul>	グループ間での差があるか、また、それが他の安全活動成果と相関があるか調査。	大きな差はなかったが、グループの一部で、やや特徴的なことも把握できた(疲れやすさ、軽率さ等)。
第5R (部下個人の指導)	<ul style="list-style-type: none"> <li>監督者が個人データを保管、継続して日常の安全指導に活用。</li> </ul>	部下の日常安全および健康の指導。	インパクトを与えないと継続は難しい。

図1 エラー傾向等のグループ別平均値

職 組	エラー	パーソナリティー(1)	パーソナリティー(2)	コメント
事務所  12名	聞き違い・見落とし(A) 	疲れやすさ(E) 	自制心のなさ(I) 	
1職1組 クロス加工 小型 CA  16名	聞き違い・見落とし(A) 	疲れやすさ(E) 	自制心のなさ(I) 	

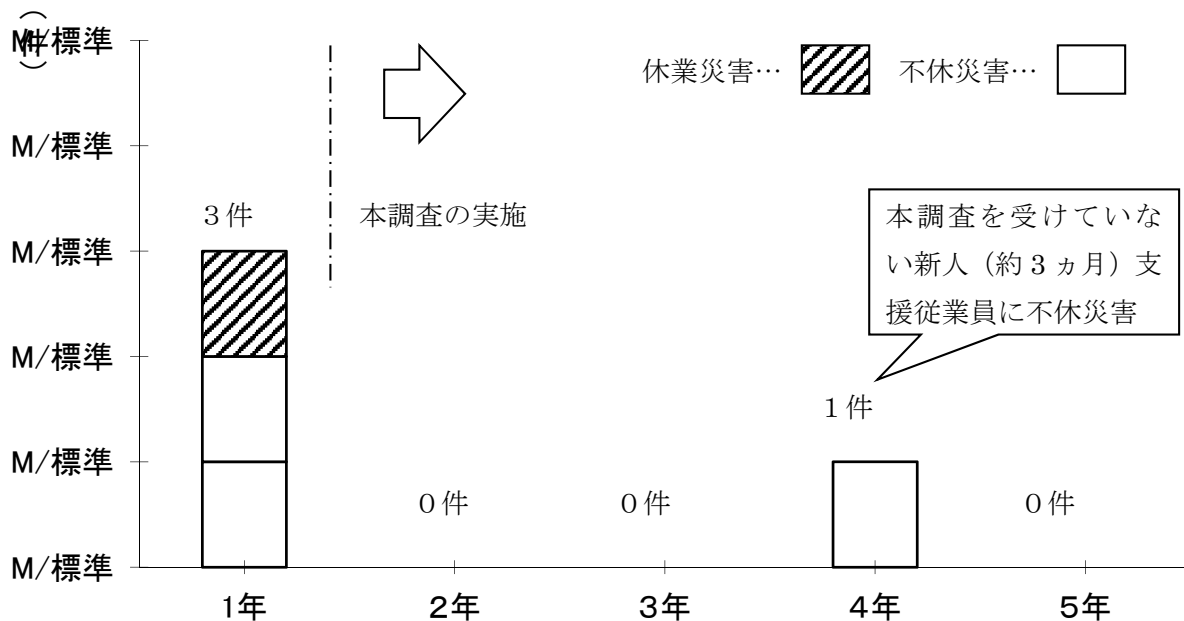
## 8 安全行動調査結果の活用効果と問題点

当事業場において調査結果活用ステップにより安全行動調査結果を活用した結果、得られた成果とともに、これに関連して認められた課題は、「表2 安全行動調査結果の活用効果と問題点」に示すとおりである。

表2 安全行動調査結果の活用効果と問題点

効果のあった事柄	問題点として残る事柄
1. 活用の具体化を進めることで、安全活動が活性化し、災害減少が図れた（図2 製造課の災害推移（例））。 2. 個人の安全意識が確実に上昇した。 3. 相互注意運動が芽生え始めた。 4. 監督職と部下とのコミュニケーションがよくなるツールとして生かした。	1. 1回の調査では単発的で不十分。人の異動もあるため、継続して調査する必要がある。それにより、個人の変化を知ることができ、指導に活用できる。 2. 本調査を万能と考えないこと。あくまでも種々の安全活動（KY活動など）に応用、リンクさせる必要がある。

図 2 製造課の災害推移 (例)



## 9 今後の展開

安全行動調査を受けた労働者には労働災害が発生していないが、今後の対策として次のことが必要であると考えられる。

- (1) 全員の安全行動調査結果データが常に必要であるため、その継続的な実施が必要であること。
- (2) 新入社員等の導入訓練時における安全行動調査の実施が望まれること (実施中)。
- (3) 全職場への安全行動調査結果の実施及びその結果の活用を展開すること。
- (4) 労働災害の経験を有する労働者とその経験を有しない、同僚である労働者との間で安全行動調査結果に基づく比較分析を行うこと。

健康診断が毎年多数の検査項目にわたって詳しく行われるように、労働者個々人の特性を知るために安全行動調査による診断があっても少しも不思議ではない。これからも「行動災害」防止のため積極的に本調査を活用し、「労働災害のない明るい元気な職場」を目指したい。

<b>事例 3</b>	<b>活用方法：①個人目標設定 ②日常指導 ③小集団</b>
-------------	--------------------------------

## 1 事業場の概要

- (1) 主要製品：医療用及び工業用レントゲンフィルム 印刷用製版フィルム  
写真用印画紙原紙 感圧紙 感熱紙
- (2) 労働者数：総数 1,520人（男性 1,160人 女性 360人）
- (3) 作業特性：①自動機械による生産 ②監視作業 ③交替制勤務 ④立ち作業  
⑤非定常作業として自動化及び手作業による装置・設備の洗浄作業  
⑥一人で多くの機械を操作すること

## 2 安全行動調査実施の背景

当事業場は、創業以来安全衛生成績は必ずしも良好ではなく、使用されている製造用大型自動設備の性質上、「挟まれ・巻き込まれ、高熱物による熱傷、刃物類による切創等」による休業災害、不休災害が毎年2～4件発生している。

安全基本方針「人間尊重の理念に基づき安全をすべてに優先させる。安全と健康は工場の基盤」に基づき、3ヵ年計画でゼロ災工場を目指し、けがをさせない対策として安全衛生管理体制の強化、本質安全設備化、工場トップによる安全衛生巡視、セーフティリーダーの任命とその活動、自主的安全対策の工場内共有化等を、またけがをしない対策としてTBM、5S、KYK、HHK（ヒヤリ・ハット キガカリ）等の活動を、実施してきたが、労働災害は減少傾向にはあるものの、ゼロ災工場とはなっていない。

年間の安全衛生推進目標の策定に当たり、当事業場の安全衛生委員会において現状、問題分析を行い、この結果に基づき、次の方針を決めた。

- (1) 対策が総花すぎで、活動の徹底に欠けていたので、重点対策に徹底した活動の推進を図ること。
- (2) 過去の災害事例では不安全行動に関連する要因で発生しているものが大半であったので、重点対策として「自分の安全は自分で守る”本質安全人間づくり”」を掲げること。

その手段として、労働者一人一人の特性を知る「安全行動調査」の導入、活用を検討することとした。

## 3 安全行動調査実施決定までの経緯

- (1) 経営トップの承認取付け

当事業場のゼロ災工場実現のため、経営トップから新安全対策の導入が指示された。安全対策上の課題としては本質安全設備化と本質安全人間づくりの活動を車の両輪のように進めることが基本になる。後者のためのツールとして安全行動調査があるこ

とを知り、調査した。トップに安全行動調査の活用案を提言したところ、「まずやってみよう」と全面的に支持、承認された。これは、人材育成のため、T P I (Today Personality Inventory) を日常的に行っており、アンケート調査の実施になじみがあることにもよると考えられた。

(2) 中央安全衛生委員会での合意、実施方法の検討

ア 安全行動調査の導入には委員全員の賛成が得られた。

イ その実施方法等について、次のとおり合意された。

(ア) 初回は、原則として管理者を除く係長以下の者を対象とし、管理者については希望する者に限ることとした。

(イ) 安全行動調査結果のプロフィールを参考にして「安全行動評価票」を作成し、行動目標を決めることとした。

なお、評価票という名称から人事評価を懸念する声もあったが、安全活動への取組みについての評価であるということで了解された。

(3) ライン管理監督者への説明

事業場安全衛生スタッフから各部門の安全衛生スタッフに安全行動調査実施の趣旨、手順等について説明した。この際、個人のプライバシーに係わる情報が公表されることになるのでは、との懸念も示されたが、人間尊重の基本方針に基づき、あくまでも客観的に自分の特性を知るためである旨説明したところ、理解が得られた。

なお、このような協力が得られたのには、中央安全衛生委員会の委員によるフォロー(関係者への根回し)があつてのことであつた。

(4) 事業場内への広報活動の実施

ア 経営トップ、中央安全衛生委員会に当時の中災防月刊誌「安全」の安全行動調査に関する事例紹介記事を配布、説明の上、その実施等への取組みについての理解を得た。

イ 全社員には、事業場安全広報誌で安全行動調査実施の趣旨、手順等について周知し、その実施等への取組みについての理解を得た。

#### 4 安全行動調査実施の目的、手順

安全行動調査について当事業場の55部所を対象として、「安全行動調査実施の件(抜粋)」に示す目的及び手順により実施した。



## 安全行動調査実施の件（抜粋）

**1. 目的**

本年度工場安全重点施策のひとつとして「自分の安全は自分で守る“本質安全人間づくり”」のため、各人の行動性向を知る「安全行動調査」を行い、「安全行動評価票」による安全自己評価と上長評価を突き合わせて話し合うことにより、自己の安全レベルの向上を図ります。

この安全行動調査は、従業員一人ひとりの意識に必ずしも気付かないまま現れている不安全な行動の原因になるおそれのある特性、傾向を調べ、不安全な行動を少しでもなくすことに役立てることを目的に行うものです。

**2. 実施手順**

調査票に記入し、事務部安全衛生グループにて安全行動調査実施事業所台帳と共に中災防に返送しコンピュータ処理いたします。

- (1) 各部総務課に説明：1月17日（部別調査票配布）
- (2) 各部総務課より調査票配布と説明：1月18日より順次
- (3) 各部部署別調査票記入、各部総務課まとめ、事務部安全衛生グループに返送する  
納期 2月9日 定時まで 必着

**5 安全行動調査結果の活用**

- (1) 安全行動調査の実施結果として中災防から提供されたプロフィールは、その調査を受けた者の性格等にピッタリで、各人の目標設定に大変役に立った。
- (2) 本調査を実施した55部所において、次の「安全行動評価票」の様式によりこの調査を受けた一人一人について安全行動目標を設定し、その達成に向け実行を開始した。

安全行動評価票				本人	上長	上長
安全行動談問	自己評価	上長評価	上長アドバイス	本人	上長	上長
(1) 私は、形だけでない、確認のための指差し・声出している。	十分 まあまあ 不足	十分 まあまあ 不足				期末振り返り
(2) 非常作業や慣れない作業をする時は必ずKYを実行している。	十分 まあまあ 不足	十分 まあまあ 不足				
(3) ヒヤリ・ハットは上長・仲間知らせ、けがの防止に努めている。	十分 まあまあ 不足	十分 まあまあ 不足				
(4) 決められたルール・禁止事項を守り、絶対に破ることはない。	十分 まあまあ 不足	十分 まあまあ 不足				
(5) とっさの場合にも一呼吸おいて、安全の確認をしている。	十分 まあまあ 不足	十分 まあまあ 不足				
(6) 階段の上り下りにも気をつけるほど、安全には十分な注意をしている。	十分 まあまあ 不足	十分 まあまあ 不足				
(7) 職場の中に不安全な場所や設備がないか、常に見るように努めている。	十分 まあまあ 不足	十分 まあまあ 不足				
(8) ルールを守り、細心の注意をして車の運転をしている。	十分 まあまあ 不足	十分 まあまあ 不足				
役付係長記載 (1) 私は、部下の不安全行動を指摘し、安全上の指導をシッカリ行っている。 (2) 部下の話をよく聞いて、必要な安全対策を実行している。 (3) 安全上の問題点や改善が必要なことについて上長に意見具申している。	十分 まあまあ 不足	十分 まあまあ 不足				
	十分 まあまあ 不足	十分 まあまあ 不足				
	十分 まあまあ 不足	十分 まあまあ 不足				
あなたは、 自分の安全を自分で守るために、どのように行動しますか、行動基準は何ですか。						

(3) 実際の活動は、次により実施した。

ア 部所ごとに労働者個々人の行動目標を一覧表にして掲示し、次のことを行った。

(ア) 自分の行動目標を毎日確認の上、行動すること。

(イ) 同僚の行動目標を知り、相互アドバイスに活かすこと。

イ 直属上司の長は、そそっかしい部下、ついウツカリする部下には、それぞれの特性に応じた指導、フォローを行う一方、行動目標設定後、2～3月経った時点で事業場全体の中間フォローを行い、その活動の盛り上がりを図った。特定の部所では次の「個人安全目標中間フォロー票」を活用していた。

## 個人安全目標中間フォロー票

課・係	氏名
<p>私の安全目標を書いてください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 60px; margin: 5px 0;"></div>	
<p>問1. 私は決めた安全目標活動を実行しています。</p> <p>1) 必ず実行している                      2) ときどきやっていない</p> <p>3) あまりやってない                      4) 全くやっていない</p>	
<p>問2. 問1で3) 4) に○の方 行動できていないのはなぜですか</p> <p>1) 必要を感じていない                      2) 決めるだけでいいと思っていた</p> <p>3) うるさく言わないから</p> <p>4) 目標が行動できるものになっていなかった</p> <p>5) その他</p>	
<p>今後の自分の安全行動について決意・意見を書いてください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 70px; margin: 5px 0;"></div>	
<p>上長コメント（面接して記入）</p> <div style="border: 1px solid black; height: 70px; margin: 5px 0;"></div>	

ウ 経営トップ、中央安全衛生委員長等がテーマを決めて安全巡視・監査を行うことにより、「本質安全人間化施策取組み状況」を確認し、その活動のねらいの徹底、その活発化・平準化を図った。

## 6 安全行動調査結果の活用効果

安全行動調査結果に基づく「安全行動評価票」の活用により下表の「活用の成果等一覧」に示すとおり不安全行動による災害ゼロに向けて順調に成果が上がってきた。

表 活用の成果等一覧

活用方法	効果のあった点	問題点等
<p>1. 安全行動評価票の作成 (安全行動目標の設定)</p> <p>↓</p> <p>全員の行動目標を安全掲示板に掲示</p> <p>↓</p> <p>1～2ヶ月ごとに個人面談</p> <p>フォロー実施</p> <p>↓</p> <p>(期末に振り返りをする)</p>	<p>○ 本人のエラー傾向、パーソナリティ傾向およびコメントがピッタリであるという意見がほとんどであり、自分を知ることができた。</p> <p>○ 直属上長との面談が抵抗なくでき、職場風土が改善されつつある。</p> <p>○ 全員参加で進めている横展開でフランクに相互指摘もできるようになる。</p> <p>↓</p> <p>安全活動の活性化</p> <p>○ 上長とのコミュニケーションが良くなった。</p> <p>○ そそっかしい、ついウツカリしやすい要注意者への安全指導、フォローが明確となり、上長とのかかわり合いがスムーズに実行できる。</p>	<p>特になし</p> <p>ただし留意している点として、本調査結果は、本人の特性を客観的に知ることので、決めつけることはしない。</p> <p>↓</p> <p>1年間本質安全人間づくり活動を実施し、その結果として再度安全行動調査を実施したいと考えている。</p> <p>( ・ どう変化しているか ) ( ・ 強化ポイントは何か ) 等客観的判断資料として活用したい</p>

## 7 今後の展開

それまでの6ヵ月間の活動結果を把握し、上司の長との面談により今後の6ヵ月も一段とレベルアップした行動目標に挑戦していきたい。ただし、後半のテーマ設定時には、評価がキッチリ行えるよう、設定する目標を具体化、重点化して行うことに留意したい。

今後の予定として、今回の「自分の安全は自分で守る「本質安全人間づくり」施策の成果を確認するとともに、労働者一人一人の特性の変化を把握するため、「安全行動調査」を再度行い、一段レベルアップした施策につなげたい。

<b>事例 4</b>	<b>活用方法：①安全衛生教育 ②小集団 ③日常指導 ④個人目標設定 ⑤KYT ⑥TBM ⑦ヒヤリハット</b>
-------------	--

## 1 事業場の概要

- (1) 主製品：プラスチック製膜加工品 半導体製品
- (2) 労働者数：総数 550人（男性 510人 女性 40人）
- (3) 作業特性：①自動機械による生産 ②監視作業 ③交替制勤務 ④化学薬品の多用  
⑤ロール設備の多用 ⑥一人で多くの機械を操作すること

## 2 安全行動調査実施の背景

当事業場においては、プラスチック加工部門でフィルム搬送のため多数のロール設備を使用しており、時としてロール挟まれ災害に代表される重大災害が発生する。

また、半導体部門では、多種多様の薬品、溶剤等を取り扱っていることから、重大なヒヤリハットが起こっている。

このような状況から、当事業場の安全衛生成績は必ずしも良好ではない。したがって従来から当事業場でも「安全な設備づくり」、「安全な人づくり」を目指して種々の活動を展開してきている。

しかしながら、一方で従来から行っている安全な人づくり活動（TBM、危険予知、指差呼称等）については、徹底に欠け、マンネリ化しがちであること、やらされの感があること等の問題が指摘されている。

さらに、過去の災害事例では多かれ少なかれ労働者の作業行動に係わる要素に起因しているものが大半であり、作業行動災害防止のための活動も考える必要があった。

こうした状況の中で、人間行動の発現要因を調査する中災防の「安全行動調査」を実施し、その結果を活用して当事業場の安全衛生管理を考えてみることにした。

## 3 安全行動調査実施決定の経緯

- (1) 安全行動調査を実施してみることにについては、当事業場の幹部にはほとんど異論がなく、現状の安全成績等を踏まえ、色々な活動を積極的に行うようにとの意向も示されたので、本調査の実施に向けスムーズに進むことができた。
- (2) この調査の実施についての検討において、一部に「安全行動調査結果をどのような切り口で解析し、どのように活用するのか」という点から疑問を持たれたが、「過去の労働災害における個人的な傾向と安全行動調査結果との関係を明らかにするとともに、本人が気付いていない特性を本人にフィードバックすることで自分の弱点を知り、安全行動につなげる。さらに個人的な特性をその上司が把握することにより労働者個々の適正な作業への配慮に有効活用できる」との考え方を説明して、合意された。

#### 4 安全行動調査実施の目的

安全行動調査の結果を基に、次のことについて考察することをねらいに本調査を実施することとした。

- (1) 労働者個人の特性がどのような労働災害の発生に結び付いているのか
- (2) 労働者個人の特性が職場にどのような影響を与えているのか
- (3) 労働災害を経験している労働者に相関が認められ、今後の労働災害防止に結び付けられるのか

#### 5 安全行動調査実施の結果

中災防から提供のあった安全行動調査結果から、次のことが分かった。

- (1) 当事業場の操業部門における労働者には、職場別では若干の差はあるが、同様の傾向が認められた。  
具体的には、「エラー傾向」では「度忘れ（意識中断エラー）」によるエラーを起こしやすい傾向にあり、「パーソナリティ傾向」では「気の弱さ」や「軽率さ」に弱点が集中した。「疲れやすさ」の点でも特徴が出ていたが、これについては作業内容が影響していることも考慮する必要があると考えられた。
- (2) 労働災害の経験を有する労働者とその経験を有しない労働者との間の関係についても興味ある結果が得られた。

#### 6 安全行動調査結果の分析、活用

安全行動調査を操業部門 9 課の労働者 235 人を対象に実施したが、その調査結果を各職場で、次により活用した。

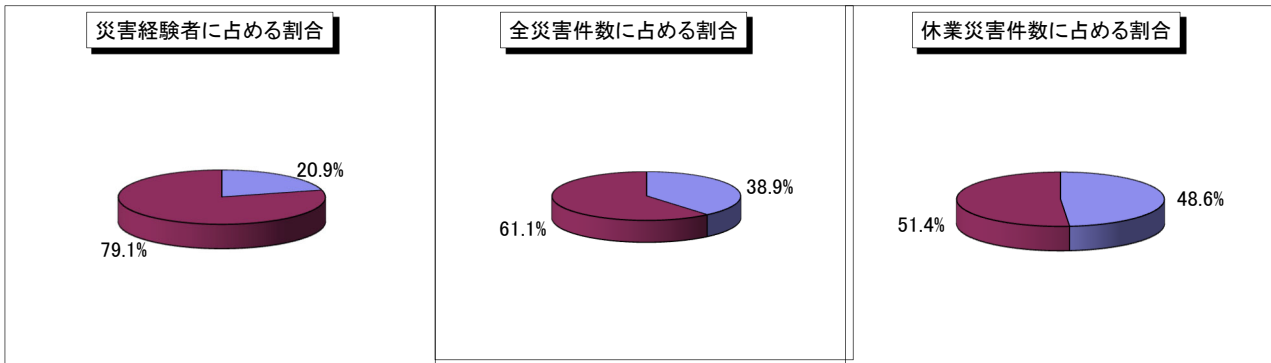
##### (1) 労働災害の分析

昭和 39 年の操業開始以来、この調査実施時点までの間に約 330 件の労働災害（休業災害 72 件 不休業災害 257 件）が発生している。これらの労働災害に係る経験者について分析したところ、「図 1 災害多数回経験者の割合」に示すとおりで、そのポイントは次のとおりであった。

2 回以上の労働災害を経験している労働者（災害多数回経験者）は、この調査を受けた全労働者の 20% を占めており、労働災害の件数では約 330 件の 40% に達するとともに、休業災害に限ってみると、50% に及んでいた。

このことから、重大災害（休業災害）ほど、災害経験者が起こしやすい傾向があるとみられた。

図1 災害多数回経験者の割合



(2) 安全行動調査結果の解析

安全行動調査結果を基に災害の経験者と未経験者との間に行動差の有無を解析したところ、その結果は次のとおりであった。

ア エラー傾向については、「図2 エラー傾向の比較」に示すとおり、災害多数回経験者、災害経験者及び未経験者の順に強いことが認められた。特に、「度忘れ（意識中断エラー）」はこの傾向が顕著に認められた。

図2 エラー傾向の比較

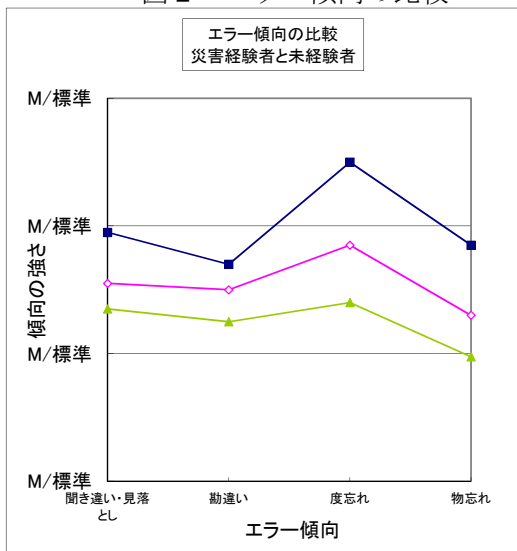
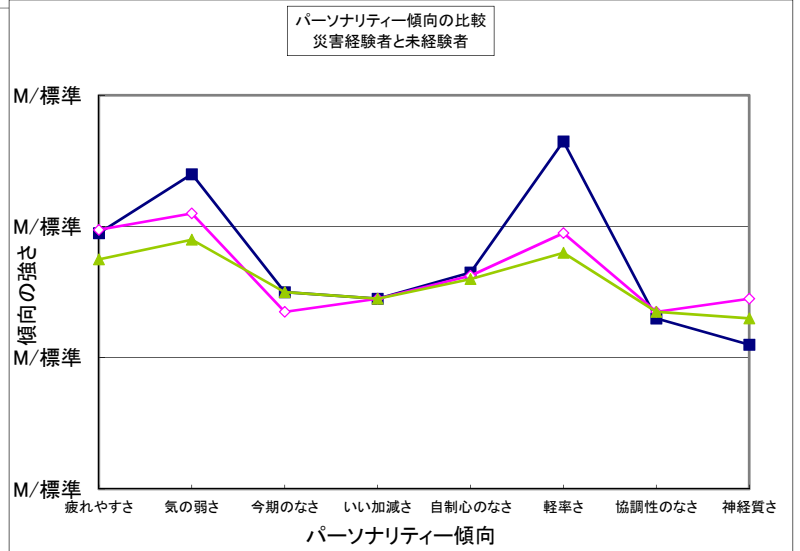


図3 パーソナリティーの比較



■	災害多経験者	(n = 19)
◇	災害経験者	(n = 63)
▲	災害未経験者	(n = 142)

イ パーソナリティー傾向については、図3のパーソナリティーの比較のとおり、「気の弱さ」、「軽率さ」にエラー傾向の場合と同様の傾向が顕著に現れた。

(ア) プラスチック加工部門では一部手作業に依存する生産方式であるため、その労働者には「体で仕事を覚える」という職人気質が残っているため、ベテランほど咄嗟に反応する傾向が強く認められた。

(イ) 災害多数回経験者にベテランが多いことから「軽率さ」の傾向が強いことと関連して、災害多数回経験者に「度忘れ（意識中断エラー）」の強い傾向が出るものとみられた。

(ウ) 「気の弱さ」の傾向については、災害未経験者を含め本調査を受けた者全体的に、ほかの特性に比べ強く出ているが、ベテランほどその傾向が強いことがうかがわれたので、現在の管理監督者の教育、指導について再検討が必要であると考えられた。

### (3) 安全行動調査結果に基づく活動の検討

労働災害の経験を有する労働者について上記(2)の解析結果を踏まえ、次により安全衛生活動を検討することとした。

ア 安全教育は、従来の座学中心からモデル設備等を利用する現物教育に切り替えること（危険性、痛み等を認識できる体験教育等）。

（身体で仕事を覚えている労働者に、口で説明するより現物を用いて教育する方が有効であり、かつ、原点に戻った教育といえる。）。

イ 作業行動災害の防止のためには、グループ内での相互注意活動が重要である。特に、監督者クラスは、その意味で重要な立場にあるので、安全行動調査結果から分かった、その特性にかんがみ、より強力に指導力を発揮できるようにするための指導・教育を実施し、監督者自ら安全衛生活動の企画、推進ができるようレベルアップすること。

### (4) 安全行動調査結果の活用

安全行動調査の結果を各職場の長を通じて労働者個々人に提供したが、この結果を各職場においてその状況に応じて活用したが、その主なものは、「表1 職場の活用事例」のとおりで、その概要を以下に述べる。



表1 職場の活用事例

事業所レベル	XX部	YY部	ZZ部
<ul style="list-style-type: none"> <li>各部、各課の結果分析災害経験者と未経験者との差分</li> <li>事業所の安全衛生活動の方針検討</li> <li>ゼロ災研修会に参加者人選に利用</li> <li>ヒヤリハットに活用予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A課/ B課 課長からの直接返却 会合で自らの結果を発表他のアドバイスを受ける</li> <li>C課 課長から直接返却 面接時に個人目標設定 KYポイントへの利用 検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>D課 主任から返却 課診断結果を掲示（無記名）</li> <li>E課 課長から直接返却 個人安全目標の設定</li> <li>F/G課 課長から直接返却 課内の診断結果説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H課/ I課 課長から直接返却 リーダーを中心に診断結果討議 個人安全目標表明 個人目標の掲示、唱和 面接時に活用</li> </ul>

#### ア グループ全員による討議

安全行動調査結果を基に、各グループで監督者を中心にグループ討議を行い、各人がそれぞれの安全行動調査結果のコメントを述べたり、リーダーにその結果を知らせ、その部下に対する日常的な作業指示に活かせるようにした。

#### イ 個人目標設定

労働者個々人がその個人目標を設定し、その内容を宣言したり、人目に付く場所に掲示したり、あるいはTBMの際に唱和する、というようなことが行われた。

#### ウ 面接への活用

例年2～3月に行われる課長面接の際に、個人目標を踏まえ、その時点での結果を基に指導を行う等安全行動調査の結果が面接に有効に活用された。

#### エ 危険予知訓練への活用

安全行動調査結果のコメントで危険予知を勧められている労働者に対して、優先的に外部ゼロ災研修（KYトレーナー教育）を受講させるよう配慮することとした。

## 7 今後の展開

安全行動調査の実施が初めてであったため、その活用に職場間で差異が認められたが、それぞれの職場の課長の工夫で活用できたことは、これまでの安全衛生活動を振り返る、という意味で有意義であったと思われる。

現在少々マンネリ化しつつあるヒヤリハット活動や指差呼称活動を今回の安全行動調査結果を取り入れた活動に切り替えようとしている。

今後、安全行動調査結果を色々な活動に生かすとともに、再度、安全行動調査を実施し、労働者個人の特性がいかに変化し、どのような安全行動に結び付いているかを考察することにより、安全活動のレベルアップを図っていくこととしたい。

<b>事例 5</b>	<b>活用方法：①KYT ②日常指導 ③個人目標設定</b>
-------------	--------------------------------

## 1 事業場の概要

- (1) 主要製品：石油化学製品
- (2) 労働者数：総数 1,116 人（男性 1,002 人 女性 114 人）
- (3) 作業特性：①高圧ガス、危険物取扱い ②自動設備による生産 ③1人で多くの機械を操作すること ④監視業務 ⑤交替勤務

## 2 安全行動調査実施の背景

- (1) 労災ゼロを目指した安全活動の一環としての活用
  - ア 近年、労災件数（休業、不休業、微傷事例）は減少しているものの、重大災害の芽となる不休業、微傷事例の発生が依然としてみられる。
  - イ その形態は、挟まれ・巻き込まれ、薬傷、切創等の反復型災害であり、かつ、不注意、不安全行動に起因するものである。
- (2) パーソナルレベルに焦点を当てた安全活動
  - ア 「人」については労働者個々人の安全に対する意識に依存するところが多い。
  - イ 労働者個人の性格／能力・知識／態度・姿勢のうち、性格は基本的には変わらないものであるが、自分で意識すればその補完は可能である。
  - ウ 現在実施している安全活動の一環として（屋上屋を重ねるのではなく）安全行動調査の活用を展開する。

## 3 安全行動調査実施決定の経緯

- (1) 事業場における承認
  - ア 経営幹部の承認（工場部長会での説明等）
  - イ 労働組合の承認（労組支部 2 役への説明等）
  - ウ 事業場内広報（工場安全衛生委員会での周知等）
- (2) 実施手順
  - ア 安全行動調査の試行職場（直接部門 2、間接部門 1）を設定し、その職場長に対する、及び安全衛生委員会等での説明、広報を行った。
  - イ 試行結果は踏まえ、全製造部門で安全行動調査の実施を開始した。

## 4 安全行動調査実施の目的

- (1) 労災撲滅のため、展開中である「感性の向上」活動の一環として取り込む。
- (2) 自分自身の特性を認識し、作業において意識的に弱点を補う安全活動を実施し、不安全行動の防止を図る。

(3) 相互の特性(弱点)を認識した、相互注意運動へ展開し、作業行動災害の防止を図る。

## 5 安全行動調査結果の活用

### (1) 基本的考え方

ア パーソナルレベルに焦点を当てた活動としての活用

作業前のKY、指差呼称等労働者個々人の安全行動のポイント及び相互の注意・啓発のポイントとして活用する。

イ パーソナルレベルとマネージメントレベルのコミュニケーションツールとしての活用

マネージャーのコミットメント：労働者の不安全行動の可能性を本人及び上司である管理監督者ができるだけ小さくするために活用する。

### (2) 各職場の展開

安全行動調査結果に基づく「個人安全宣言」作成と公表

(3) 定修に備え作業行動災害及びミスオペ防止に向け、個々のウィークポイント安全宣言を全員で確認した。

## 6 安全行動調査結果の活用効果

### (1) 作業者の反応(例)

① 安全行動調査の結果：個人のエラー傾向、パーソナリティ傾向がおおむね合っていた。

② 作業前はもちろん、車運転時もエラー傾向を念頭に置き行動している。

③ 各直の個々の作業、活動にウィークポイントをベースとした相互注意運動が芽生えた。

### (2) 職場長の所感

① 個人の「安全宣言」を確認し、定期面接あるいは喫煙所で会話の中で、それとなく様子を聞く、注意をする等心掛けている。

② 相互注意の点から、パートナー制を採用し相互にコメントするようにした。この結果、フランクな相互認識ができ、啓発・是正のポイントが明確になった。

③ 部下の人数も多く本安全行動調査に関わる作業者との面接はきつい。

(3) 具体的効果：災害発生との定量的効果は未だ確認できていない。

## 7 今後の展開

### (1) 実施中職場

① マンネリ防止への対応：その実施から日まだ浅いためマンネリの顕在はまだないが、今後の大きな課題である。

② 事業場レベルへの展開：来年度全製造部門で実施し、事業場全体の展開については是非

事例 5

を検討する。

- (2) プラントの過去のヒヤリ事例と安全宣言をマッチングさせ、ヒューマンエラーのポイントの傾向をみてみたい。

「安全行動調査」活用表（書式例）

職場名 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

## 1. 個人安全宣言

私の特性	安全宣言
考える前に行動が先行する傾向がある	<u>1. 労働安全</u> ・作業前に5秒間待ちます <u>2. 交通安全</u> ・出勤時間を5分早め、心の余裕を持つ。

## 2. 自己管理チェックリスト

	自己評価		管理者のコメント		
	評価点	コメント	班長	係長	課長
前年/12					
当年/1					
/2					
/3					
/4					
/5					
/6					
/7					
/8					
/9					

[評価点]    ○：不可、    1：不十分、    2：良

安全行動調査の実施計画（製造部門各職場への展開）

安全行動調査の概要

安全行動調査とは

本調査は、中央労働災害防止協会が開発し、質問票調査方式により行うもので、78の日常的な場面での質問に対し、「はい」か「いいえ」の二者択一法で回答したものを分析し、その人の「エラー傾向」、「パーソナリティー傾向」を客観的に表示する。

調査で判ること

・個人：

<分析結果> 不安全行動と関連が深い要因等ごとに傾向の強さ（5段階）を表示する。

エラー傾向	聞き違い・見落とし 勘違い 度忘れ 物忘れ
パーソナリティー傾向	疲れやすさ 気の弱さ 根気のなさ いい加減さ 自制心のなさ 軽率さ 協調性のなさ 神経質さ

<コメント> 上記結果からの、各人の特性や作業を行う上での注意事項

労災トレンド（概略）

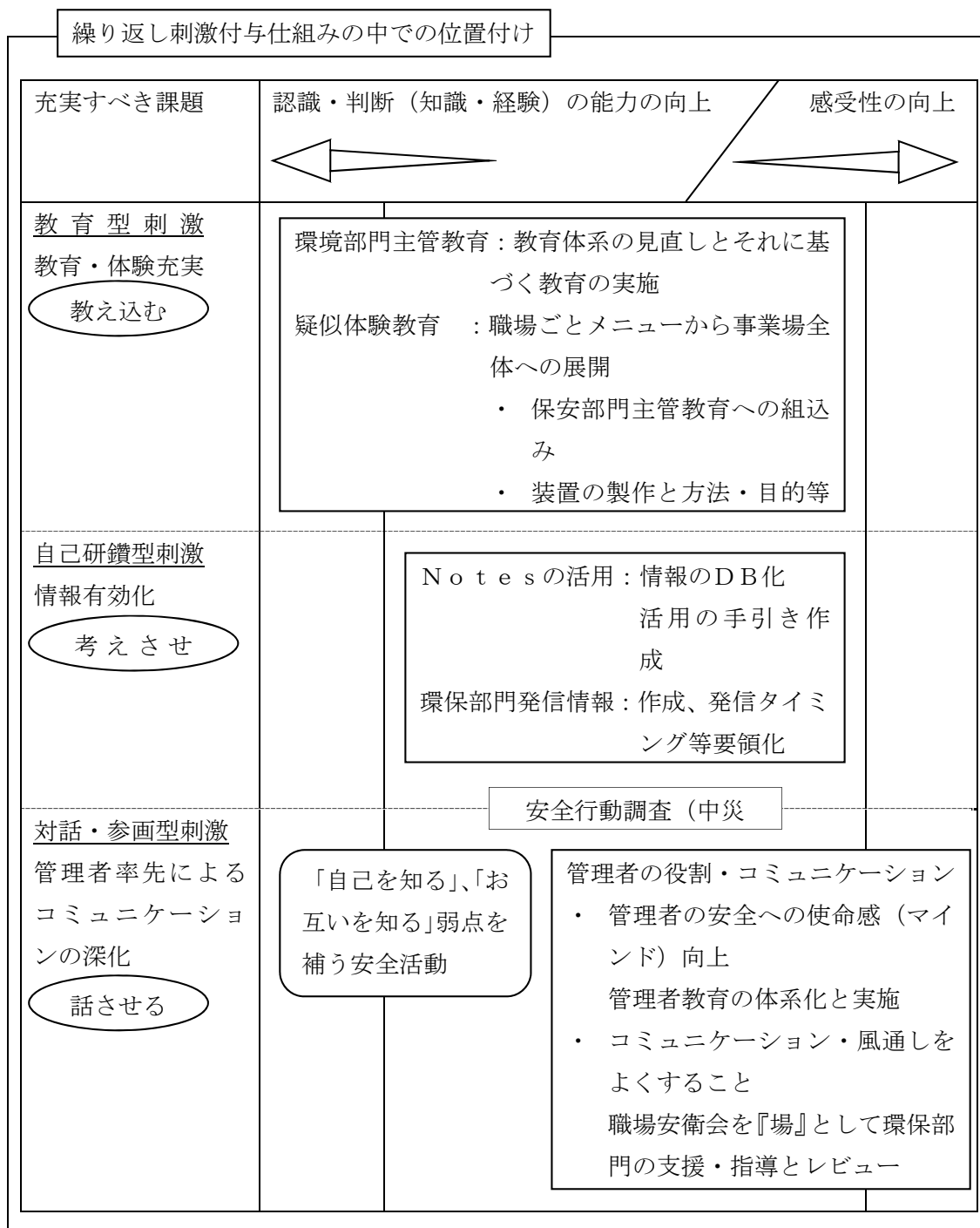
7年間の労働災害事例 Total：41件（休業：2／不休業：9／微傷事例：30）  
 災害内訳：このうち不注意、不安全行動に起因するものは19件（約46%）

目的

実施の背景・目的と活動の位置付け

- ・ 労働災害『ゼロ』を目標：労災件数減少しているものの、類似災害が依然として発生しその形態は人に起因するものが多い。
- ・ 「人」については個人の安全に対する意識に依存するところが多い。パーソナルレベル（※1）に焦点を当てた安全活動として現在取組中の『繰り返し刺激付与システムの仕組構築』の一環として活動する。
- ・ 自己研鑽型刺激（考えさせる）及び対話・参画型刺激（話させる）の中で「自己を知る」、「お互いを知る」をキーワードに
  - （1）自分自身の特性を認識した、作業・行動の場で意識的に弱点を補う安全活動を実践し、不安全行動の防止を図る。
  - （2）相互の特性を認識した、相互注意を行う。

（※1）個人の・性格／能力・知識／態度・姿勢性格は基本的には変わらないものであるが、自分で意識すれば補完は可能である。



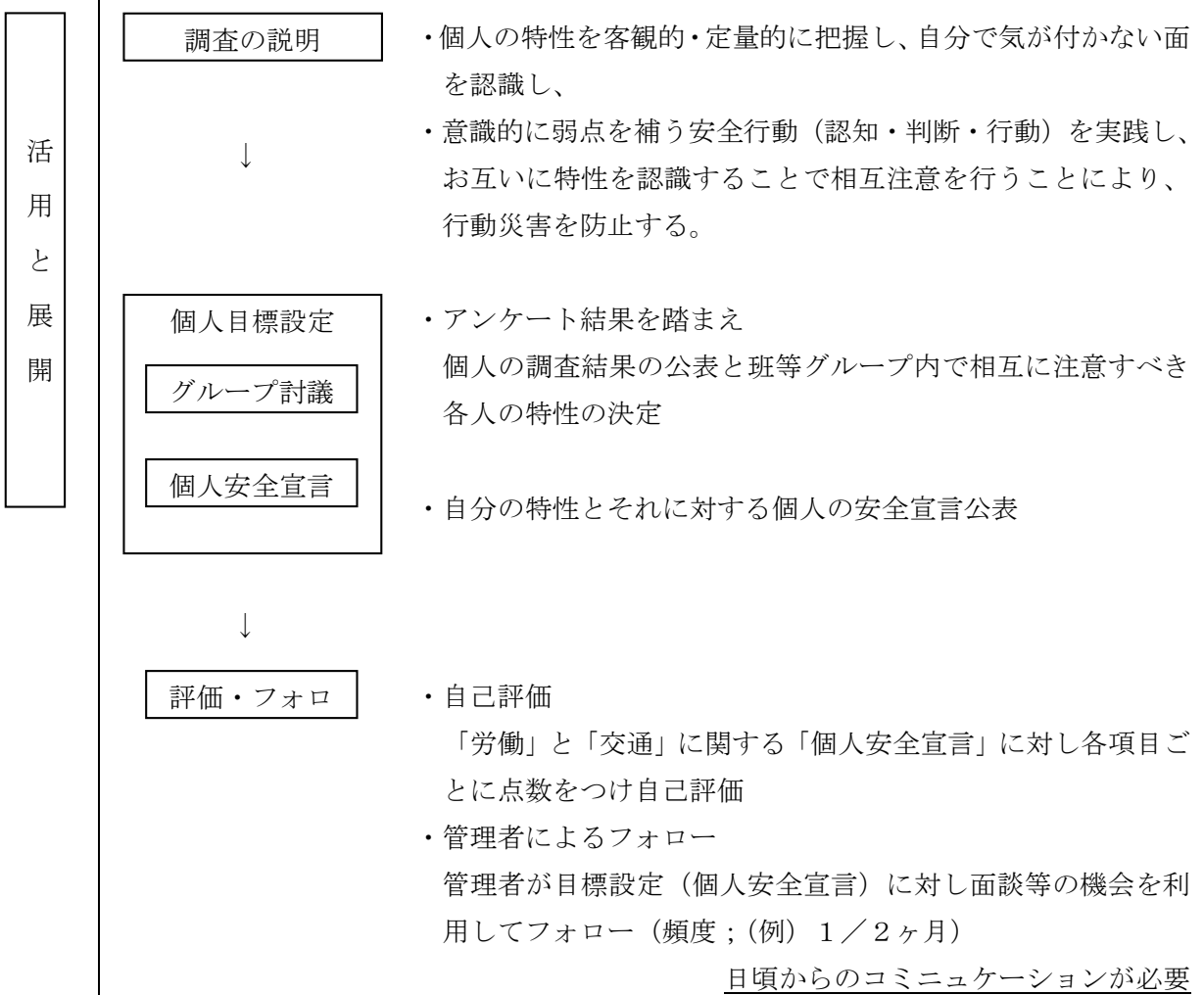
活 用

パーソナルレベルに焦点を当てた活動として実践

作業前のKYM、指差呼称等個人の安全行動のポイント及び相互の注意・啓発のポイントとして活用する。

パーソナルレベルとマネジメントレベルのコミュニケーションツールとして活用

マネジメントのコミットメント：部下の不安全行動の可能性を本人及びその管理・監督者がいかに少なくするかに活用する。





事例6	活用方法：①個人目標設定 ②小集団
-----	-------------------

### 1 事業場の概要

- (1) 主要製品：感光材料（写真用印画紙、写真用フィルム）
- (2) 労働者数：総数585人（男性430人 女性155人）
- (3) 作業特性：①遠隔操作、自動運転 ②暗室内における準備や確認の手作業 ③生産品目による日勤、二交替又は三交替制

### 2 安全行動調査実施の背景

- (1) 事業場のイノベーション活動として「21世紀に通用する力強い工場」を実現することを目指し、その一環として、安全快適工場の実現に取り組むこととし、その施策の一つとして、中災防の「安全行動調査」を実施することにより、自分では気付かない行動・性格傾向を明らかにし、自己の安全レベルの向上を図ることとした。
- (2) 安全とは：危険を伴う仕事を無事に行うこととし

改善（設備、標準化等）

$$\text{安全性} = \frac{\text{改善（設備、標準化等）}}{\text{油断（人の危険行動：油断、間違い、物忘れ、慌てる等）}}$$

と考え、分母を如何に小さくして、安全性を高めるか？の観点で、その「安全行動調査」の導入を考えた。

- (3) 近年、当事業場において毎年1～2件のけがが発生しており、いずれも、被災者の行動に起因していることから、「安全行動調査」実施することとした。
- (4) 当初、生産現場のみを対象と考えたが、研究・開発・技術部門も薬品類、実験機等を使用しており、その他間接部門も含め、事業場のトップ以下全員を対象として実施することにした。

### 3 安全行動調査実施決定までの経緯

- (1) 安全快適工場推進委員会で中災防から安全行動調査の実施について説明を受けた。
- (2) 安全快適工場推進委員会で説明資料を作成した。
- (3) トップへの事前説明により、トップも興味を示した。  
安全行動調査結果は非公開とすることを条件とした（ただし、係長までは部下の安全行動調査結果を開示する）。
- (4) 事業場運営会議（事業場の審議決定機関：各部門長により構成）に提案し、特に異論なく安全行動調査の実施について決定された。
- (5) 事業場安全衛生委員会に同様の内容を提案し、特に異論なく決定された。

(6) 各部門代表者（係長クラス）への説明会を開催したが、特に懸念の声はなく、抵抗感もなかった。これは、エンパワーメントアンケート等毎年実施していることから、このような調査になれていることによると思われる。

(7) 安全行動調査の実施においては、三交替職場及び休暇取得者についても確実に行うようにし、その実施対象者全体の取りまとめに必要な時間をあけた（約15日間）。

#### 4 安全行動調査結果の活用

##### (1) 「安全行動宣言」(生産職場)

安全行動調査を受けた労働者個々人が、その結果から自分のウィークポイントをつかみ、図-1の「安全宣言カード」を、それぞれ作成の上、常時所持し、始業前にこのカードによりポイントの確認を行い、作業に入る。

氏名	安全 太郎		
私のウィークポイント	安全宣言		
考える前に行動してしまう傾向がある。	作業前には、一呼吸いれ、行動する		

図-1 安全宣言カード (例)

##### (2) 安全宣言のフォロー (生産職場)

サークル(小集団活動:主体は勤務体制のグループ)における安全ミーティングの際に、図-2の「安全宣言チェックシート」を用いて安全宣言どおりの行動が取れたかどうかをチェックし、以後の安全行動を考える。

安全宣言チェックシート						
サークル名 : ○△サークル		点	1	2	3	4
5						
安全行動しましたか?		していない		ときどき		っ
ねに						
氏名	安全宣言	7月	8月	9月	気づいた点 (個人)	
安全太郎	作業前には、一呼吸いれ、行動する。	3点	4点	4点	作業前に互いに声を掛け合うとよい。	
.	.	.	.	.	.	

図-2 安全宣言チェックシート (例)

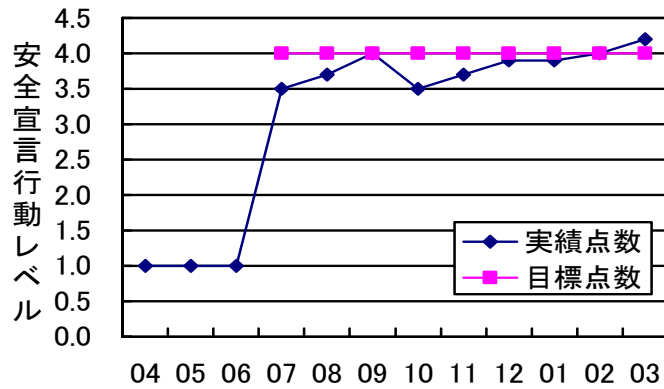
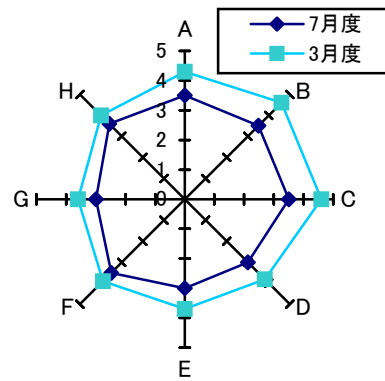


図-3 安全宣言行動レベル推移



5：いつも意識している  
 4：ほとんど意識している  
 3：時々意識している  
 2：たまに意識している  
 1：意識していない

図-4 グループ別安全宣言行動レベル

《分かったこと》

安全意識は着実に向上してきた。

(3) 作業チームの行動傾向の把握：日常作業時の注意を喚起する。

サークル名	○△サークル		人員	6名	平均年齢	38歳
	傾向の強さ	弱い	やや弱い	普通	やや強い	強い
エラーの傾向	聞き違い・見落とし			2人	4人	
	勘違い		1人	4人	1人	
	度忘れ		2人	4人		
		.	.	.	.	.

図-5 安全行動調査結果プロフィールのサークル集計 (例)

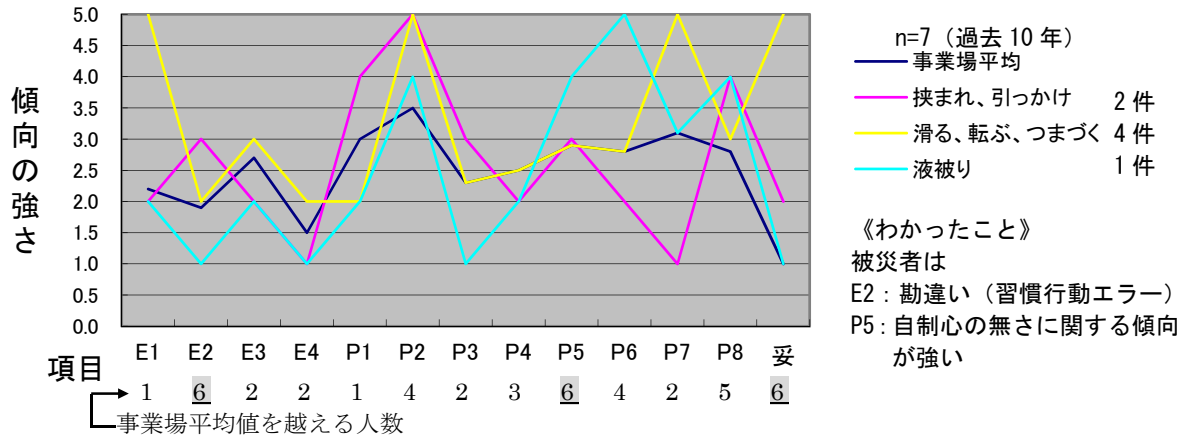
《分かったこと》

メンバーの強み：体力もあり動きもよい

メンバーの弱み：あわてて処置しがち →指差呼称を励行しよう！

(4) 被災者の安全行動傾向の把握 (事業場全体)

被災者の安全行動点数 (傾向の強さ) と事業場平均値の比較を行うことにより、傾向の違いの有無について調査した。



図－6 安全行動の傾向の強さ（事業場平均と被災者）

## 5 安全行動調査の活用効果

### (1) 作業者の反応

自己の行動傾向を具体的に把握でき、意識して安全行動を取れるようになった等評価は高い。

### (2) 職場の長を始めとする管理監督者の所感

- ア 部下の行動傾向を把握でき、安全指導に利用できる。
- イ 活用方法の事例がほしい。

### (3) 具体的な効果

- ア ミーティング時、安全に関する話題がよく出るようになった。
- イ 自己の安全意識が向上した。
- ウ 自己のみならず、作業チーム内の安全行動について、相互注意喚起ができるようになった。

## 6 今後の展開

- (1) 被災者の特性について検討を継続する。
- (2) 安全意識向上のため、他社事例も参考に、安全行動調査結果の活用方法を検討する。
- (3) 再度、安全行動調査を実施するかどうかを検討する（意味があるかどうかを含め）。

事例7	活用方法：①個人目標設定 ②KYT ③TBM
-----	------------------------

## 1 事業場の概要

- (1) 主要事業：送電線建設工事 通信線調査・設計・架設・保守点検工事 屋内配線工事  
道路・トンネル内他各種照明設備工事
- (2) 労働者数：総数52人（男性47人 女性5人）
- (3) 作業特性：①高所作業 ②山岳部における作業、移動 ③重い機械工具の取扱い

## 2 安全行動調査実施の背景

安全活動を進めていく上で、機械・設備の安全化や労働者への安全衛生教育などを行うとともに、職場における安全活動の推進は欠かせないものといえる。当業界について、災害を発生原因別に見てみると、機械・設備の欠陥が主要因となる災害は減少してきたが、墜落（転落）、はさまれ・巻き込まれ、物の飛来・落下によるものが上位を占め、それらの原因としては、作業者の不注意、作業方法の不適切等人的要因がほとんどで、いわゆる不安全行動災害が顕在化しており、毎年、繰り返し型災害が多い。その不安全行動、労働者の作業行動に問題があると考えられる。人間が関わる限り、逃れようのない課題である。いかにして、不安全行動を少なくするかが問題であり、心理学、生理学を含めた幅広い対応も必要とされる。

この不安全行動の防止は、安全活動を進めていく上で重要なテーマであり、この対策、感受性の向上策の一つとして、「TBM-KY」、「ヒヤリ・ハット」、「災害事例」、「指差呼称」などをベースにして行ってきたが、マンネリ感があり、停滞気味である。

このため人間にありがちな、不注意、不安全行動などを防止するためには、労働者個々人の意識や、特性にまで踏み込んで対処することが必要である。

そこで、その手段の一つとして、中災防の「安全行動調査」を導入、活用してみることとした。

## 3 安全行動調査実施までの経緯

トップの承認・審議
-----------

○安全衛生委員会（4月開催）

- ・この手法は新しい試みである。
- ・調査結果をどのように活かすのかが問題である。

↓

安全行動調査の準備
-----------

○中災防との連絡・調整

○安全行動調査についての回覧による周知

↓

安全行動調査の実施

- 8月に実施（49人）
- 翌年1月、この調査結果に基づき個人目標を設定
- 2月、KYノートに活用、これを配布し、説明した。

4 安全行動調査実施の目的

労働者個々人がその特性を客観的に把握することにより、自分では気付かなかった面を認識し、意識的に弱点を補う一助として、安全行動を実践する。また、お互いに同僚の特性を認識することで、相互是正を行い、作業行動災害を防止することを目的とする。

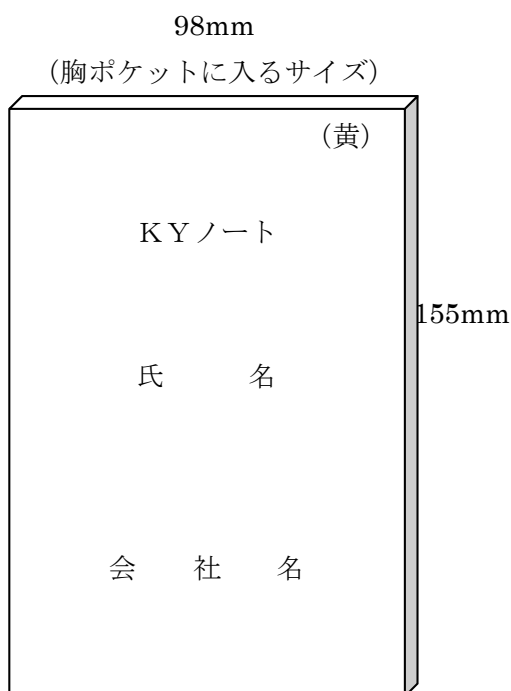
5 安全行動調査結果の活用

- (1) 個人目標の設定（KY時の充実）
- (2) 自己管理チェック及び自己診断
- (3) 行動チェックと評価
- (4) 安全教育・指導
- (5) 安全活動への反映

上記（1）～（5）を基に、KY活動（KYノート）に活用した。その内容を下図に示す。

例

（表紙）



（右表紙のすぐ裏側に下図を張り付ける。）  
（最終ページには、月間の安全標語を張り付ける。なお、その内容については省略）

氏 名	
個人目標	
いつでも どこでも 危険予知 活かそう 現場に KYノート <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">年間スローガン</div> 安全で 健康で 明るい 快適職場 みんなで 築こう 0災職場  ゼロ災で いこう よし！！	

例（中）

T B M - K Y		
工事件名		
作業名		
平成 年 月 日	天候 晴・曇・雨	
リーダー名		作業員名
危険要素	①	
	②	
	③	
	④	

## 6 安全行動調査結果の活用効果

### (1) メリット

- ア 自分が個人目標を決めるので、目的意識が持てる。
- イ K Y ノートを活用し、サイクルすることにより目的意識の持続ができる。
- ウ K Y 活動の活性化が図られる。
- エ エラー傾向の行動が減少すると考えられる。

### (2) 問題点

- ア K Y ノートを使用しないと意味がない。
- イ 労働者個々人により安全意識に違いがある。

### (3) 作業者の反応

- ア 安全行動調査結果に対してこの調査を受けた労働者の半数ほどが、当たっているような気がする」と答えた。
- イ 移動の多い作業や少数（2～3人）作業の場合には、K Y ノートを活用していたが、事業所のある現場などでは、半数以上の労働者が使用していなかった。

### (4) 所長又は職場の長を始めとする管理監督者の所感

- ア 安全行動調査結果は、安全活動の目的のみに活用することとし、ほかの目的には使用しない。
- イ 安全行動調査結果をどんな形でどのように活用するのかが問題であった。また、ほかの事例なども参考にしたが、当社の特性などを考え、強制にならないように検討・実施した。
- ウ 当社では、従来 K Y ノートを使用していたので、これにその調査結果を活用することはアイデアとしては良かったが、その後のフォローが足りなかった。

### (5) 具体的効果

- ア 労働者個々人が安全活動に参加するという動機付けになった。

## 事例 7

イ 従来の安全教育も大事であるが、このような「安全行動調査」などのアンケート方式による手法は、取り組みやすく、また、入りやすい良い方法なので、安全活動促進のきっかけになった。

ウ 安全行動調査結果の活用方法を作成していたが、行動チェックや評価がこれからのので、具体的な効果は、今後に待たれる。

### 7 今後の展開

ア 最初の意気込みは良かったのだが、安全行動調査を実施してから一年が経過し、尻すぼまりの状態である。このままでは、実施した意味がなくなるので、再度、安全行動調査を行い、前回との比較など検討・確認し、その結果に基づいた評価を行いたい。

イ 労働者個々人の安全に対する問題意識が違うので、全員参加を目標に徐々に動機付けをしていきたい。また、ほかの安全手法も交えながら繰り返し継続していきたい。

ウ 活発な安全活動が実践されなかったので反省し、「安全な人」づくりと併せて、実践していきたい。



<b>事例 8</b>	<b>活用方法：①KYT ②個人目標設定</b>
-------------	--------------------------

### 1 事業場の概要

- (1) 主要製品：射出成形機 押出機 化学・荷役・鉄道車両用機械
- (2) 労働者数：総数 1,241 人（男性 1,185 人 女性 56 人）
- (3) 作業特性：①二交替制勤務 ②一人作業 ③立ち作業 ④手作業

### 2 安全行動調査実施の背景

当事業場の安全成績は、過去 10 年間で 25 件の災害が発生しており、その内訳は休業 10 件・不休 15 件で、部位別で見ると 54%が手指の災害で、事故の型別では、40%が指の挟まれで、経験年数別では特に 1 年未満の者が 50%を占めている。

ヒヤリハット等を含め労働災害の内容を見ると、ヒューマンエラーに関連するものがほとんどであり、設備においては水平展開等で対策を立ててきたが、人に対しては個人の安全意識、性格にまで入り込んだ対策には至っていない。当時の安全衛生管理実施計画書に「災害・事故の未然防止活動」を取り上げ活動を模索していたところ、中災防の安全行動調査を知り、その内容を検討した結果、当事業場にあっている手法と判断し、実施することにした。

### 3 安全行動調査実施決定までの経緯

労働災害が起きてから色々と対策を実施するのではなく、同じ労力と金を使うのなら、先取りして行動を起こす予防対策を活性化しようとの経営トップの意向が出発点になった。

安全行動調査実施について労働組合の了解を得て、製造部長にもその内容を説明し、了承を得たので、一つの課をモデルとしてスタートすることとし、中央安全衛生委員会で説明し委員全員の賛成を得た。モデル課で実施した安全行動調査結果のプロフィールが実施者個人によく当たっていたので、26 課の課長に安全行動調査の主旨と目的を説明の上、理解を得て、事業場全体で展開することとした。

### 4 安全行動調査結果の活用

- (1) 安全行動調査結果の内容についての各課の管理者・作業者の意見
  - ア 80%の実施者はデータがよく当たっていると答えた。
  - イ 実施者は気が付いていなかった「弱い」部分がコメントで的確に指摘されていた。
  - ウ 実施者本人が自覚していなかった部分を再認識した。
  - エ 管理・監督者は部下一人一人の長所、短所を把握しているようであったが、意外と把握していない部分もあった。今回の安全行動調査結果により実施者個人個人の強さ、弱さが明確になった。

(2) 活用の具体的方法

- ア 安全行動調査結果の活用にあたり、NKY 活動導入トレーニング教育を実施して、その活用を NKY 活動と抱き合わせで推進した（別紙教育資料 No.1～No.3 参照）。
- イ 各課において安全行動調査結果のデータを基に、個人安全行動基準・フォロー表を作成し、活用した（別紙 No.4～No.5 参照）。
- ウ 通勤 KY（危険予知）マップにも安全行動調査結果を取り入れて、展開した。

**5 安全行動調査結果の活用効果**

- (1) 安全衛生活動を個人レベルまで落とし込み、地道に実施していったことにより、事業場全体の安全衛生意識・行動が改善された。
- (2) 前年 3 月に休業災害が起きた後は、執筆当年の 5 月 13 日まで完全無災害を継続している。

**6 今後の展開**

安全行動調査の一層の活用とそれを定着させるシステムを作り上げ、安全に強い人づくりと快適職場づくりを推進していきたい。

## 教育資料 No. 1

## 安全衛生グループ 連絡書

殿

平成 年 9 月 28 日

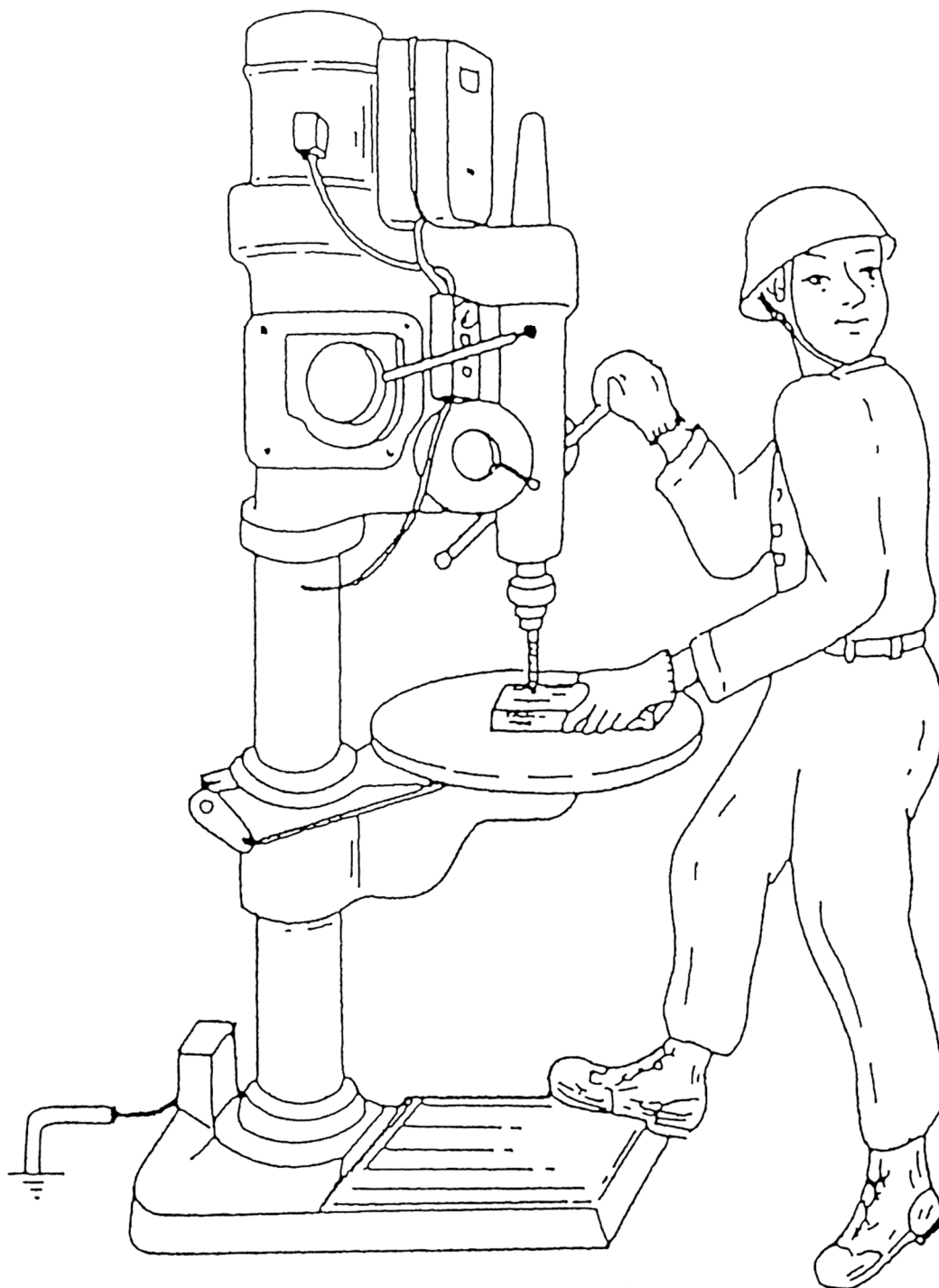
所長		安全衛生G TEL2340  NKY 活動導入  トレーニング教育実施報告書  <hr/> 平成 年度下期より、事故の未然防止のための予防的施策として、NKY 活整導入トレーニング教育を、9 月 23 日、全課を対象に実施しましたので各課とも展開して頂くようご協力お願いします。  1. トレーニング内容 ① 安全衛生管理実施計画書の事故・病気の未然防止活動実施のしくみについて。  ② 安全管理の波及効果：安全管理は、人を育て、感受性の醸成を行うことにより、安全、品質、生産性の向上を図る。  ③ 注意と不注意のリズム：2 人の女性が隠されている反転図形と、一般作業中の注意と不注意、視力分布。  ④ 大脳の機能：新皮質と旧皮質について。  ⑤ シート 1・2：グループ討議による活動実施教育  ⑥ 個人安全行動基準と、個人安全行動基準フォロー表について。  2. トレーニング教育に参加された課、グループ  機械第一課・機械第二課・組立第一課、組立第二課  熱処理課 ・鉄構橋梁課・射出組立課、生産技術課  特機検査課・樹脂開発 G・射出品証 G、射出技術 G  3. 上記、19 の課、グループ、参加人員 45 名で、討議、発表など、充実した、数日でありました。これから、各課、グループで下期の活動を展開して頂くようご協力お願いします。(活動報告書は、コストセンター別に月 1 件実施され、安全衛生 G に提出お願いします。)	承認	審査	作成
副所長					
製造部長					
射生部長					
生産技術					
立第一					
組立第二					
機械第一					
機械第二					
熱処理					
鉄構橋梁					
射生/組					
射出開発					
射出品保					
特機検査					
樹脂開発					
機械検査					
…					
…					
…					
…					
…					
…					
…					
…					

みんなで考えよう

どんな危険がひそんでいるか

状況

軍手をして卓上ボール盤で  
穴あけ作業をしている



## 教育資料 No. 3

## NKY トレーニング（グループ討議の見本）

## NKY 活動報告書

（様式 1）

課名 安全衛生 Gテーマ名 卓上ボール盤で穴明け作業をしている班名 安全班

① 次の瞬間どんなことが起こりそうですか、そしてその裏に潜んでいる赤みそは…

起こりそうなこと	その赤みそ
① 軍手がドリルに巻き込まれる	① 作業中に声をかけるな
② 切り粉が飛んで目に入る	② 軍手をせにや一手が汚れる
③ よそ見をしていてドリルに巻き込まれる	③ 軍手をせにや一手を火傷する
④ 品物が回転して手をけがをする	④ 品物をいちいちクランプできるかい
⑤ 足の位置が悪いので滑って転倒する	⑤ 切り粉なんか飛んできゃーせん
⑥ 切り粉が電気配線コードに巻き付いて感電する	⑥ 何でバイス台がないのか
⑦ 袖口がドリルに巻き込まれる	⑦ 何で簡単な作業をさせるのか
⑧ 床面の電気配線コードにつまづき転倒する	⑧ 足がだるい
⑨ テーブルが落ちて足を負傷する	⑨ ちょっとだから保護具はしなくてよい

③ このような場面でどうすべきですか、また安全な手順は…

どうすべきか	安全な手順
① 作業中は振り向かない	① 使用前に設備の安全点検をする
② 回転物には軍手を使用しない	② 品物をバイス台に固定する
③ 品物を固定する	③ 手袋を外し保護メガネを着用する
④ 切削中は保護メガネを着用する	④ 安全確認してスイッチを入れる
⑤ 正しい姿勢で作業する	⑤ 正しい作業姿勢で加工する
⑥ バイス台を準備する	⑥ 作業中はドリルから目を離さない
⑦ 長い切り粉を出さない	
⑧ 作業着手前に設備の安全点検を実施する	

④ この問題に対するグループ安全目標とあなた個人の安全行動基準は…

グループ安全目標	あなたの安全行動基準
ボール盤で穴明け作業のときは、品物を固定して、保護メガネを着用する。ヨーシ！	A： 品物をバイス台に固定して作業する B： 保護メガネを付ける C： 回転物には手袋をしない D： 正しい姿勢で作業する E： よそ見をしない F： 設備の安全点検をする G： 長い切り粉を出さない

氏 名	私のウィークポイント	安全行動基準
A	感情が不安定になったりする	あごひもはしっかりしめる
B	おとなしい性格である	作業場の確保をする
C	安請け合いをする性格である	正しい姿勢で作業する
D	突発的な問題の処理が不得手である	まずは、足場の確保から始める
E	コミュニケーション不足がある	2人作業のときはお互い確認して作業する
F	度忘れ、勘違い、など慎重さに欠ける	面倒と思わず踏み台を持ってくる
G	見間違い・聞き違い、聞き落とし、用件忘れがある	行動を起こす前には、待てよ、本当に良いかと自問自答する
H	持続力がない	踏み台等で足場の確保をする

教育資料 No.5

個人安全行動基準フォロー表

射出技術 Gr \_\_\_\_\_ 班 氏名 \_\_\_\_\_ G \_\_\_\_\_

私の安全行動基準を書いて下さい。

行動を起こす前には、待てよ、本当に良いかと自問自答する

問1. 私は決めた安全行動基準を実行しています。

- 1) 必ず実行している
- 2) ときどきやっていない
- 3) うるさく言われないから
- 4) 基準が行動できるものになっていなかった
- 5) その他

今後の自分の行動安全について決意・意見を書いてください。

自分が決めた安全行動基準を貫徹していく

班長コメント（面接して記入）

作業着手前に危険予知活動を行い、重要なことはメモを取るようになしてください

**事例 9** 活用法：①個人目標設定 ②KYT

1 事業場の概要

- (1) 主要事業：電気設備計画及び安全管理
- (2) 労働者数：総数 32 人
- (3) 作業特性：① 5 人程度のチーム ② 日常的な車両運転業務 ③ 若年者の就業が多いこと

2 安全行動調査実施の背景

(1) 下記のとおり危険感受性を向上させる取組を実施した。

危険感受性を向上させる実施項目	A 課	B 課	C 課	D 課	評価	取組概要
日常業務における危険予知活動の充実。	☆		☆		○	当日の作業内容についての危険予知活動を作業員全員に周知することで、安全作業の徹底を図り危険感受性の向上が図れた。  毎日実施することにより安全に対する意識の高揚が図れた。
工事・訓練時における危険予知活動の実施。	☆	☆	☆	☆	○	
朝のミーティング時輪番制で一言安全提言を実施する。			☆		○	
過去の災害事例等を考慮した作業手配の実施。			☆		○	
出勤時におけるハットヒヤリ体験有無の確認とフォローの実施。		☆			○	
	凡例☆：関連課所				凡例○：できた ×：できなかった	

この結果として、作業における労働災害は発生しなかったが、車両運転中における労働災害が 2 件発生した。

このため、次の課題が認められた。

ア 作業以外のあらゆる面で、危険予知訓練・ハットヒヤリ提言等の更なる充実が必要であること。

イ ヒューマンエラー撲滅のため、作業員自らの安全に対する向上が不可欠であること。



(2) 取組み

前年度の反省を踏まえ、課題として、「自分自身を自らで守る」危険感受性の醸成を掲げ、作業員自らの危険感受性を向上させるため、

ア 各個人の安全に対する特性(危険感受性)を把握する方策の検討とその実施

イ 個人の特性についての定量的な認識に基づく安全活動の計画的な実施

等について取り組むこととした。

また、各個人の安全に対する特性(危険感受性)を把握する方法について、中央労働災害防止協会に問い合わせたところ、「安全行動調査」があり、個人の安全に対する特性が把握できるとのことだったので、これを実施することとした。

**3 安全行動調査実施決定までの経緯**

(1) 「安全行動調査」の実施については、事前に中央労働災害防止協会よりパンフレット等入手し、調査概要等を把握した。その上で、別紙1の「安全衛生管理計画の取組(危険感受性の醸成)」を作成した。

この取組の概要については、営業所の安全衛生委員会(会社側委員と労働組合側委員により構成)において協議し、了承を得た。

(2) 安全行動調査の実施対象である課においては、安全衛生委員会での了承後、課内懇談会の場で所属長により、安全行動調査の実施に当たっての趣旨説明が行われ、全員の理解の下に、実施することとなった。

**4 安全行動調査実施の目的**

各個人の安全に対する特性を客観的に把握することにより、(1) 本人自身のウィークポイントを確認し、及び(2) お互いにその特性を認識の上、相互注意を行うことにより、労働災害の防止を図る。このため、各個人の危険感受性を向上させることを目的として実施した。

**5 安全行動調査結果の活用**

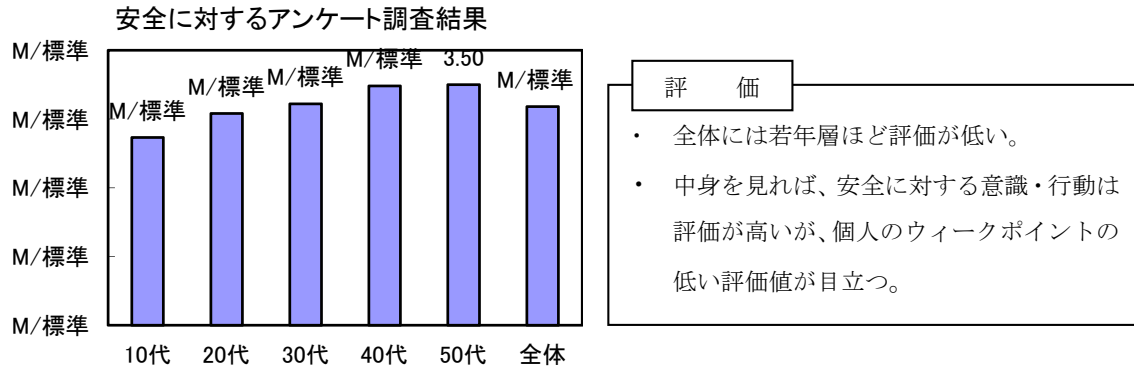
(1) 安全行動調査を実施する前のアンケート調査の実施

ア 安全行動調査を実施する前に課全員の安全に関する個人の意識・行動等のウィークポイントを把握するため「安全に関するアンケート」を実施した。このアンケート調査の項目については、安全行動調査実施の手引きの記載内容を参考にした(別紙2)。

イ このアンケート調査については、安全行動調査の前後で実施し、安全ポイントについて向上しているかどうか比較することとした。

事例9

事前アンケート



(2) 活用の具体的方法

ア 個人安全宣言の実施

安全行動調査実施の手引きに記載されていた、活用事例を参考に事業場において活用できる内容を取り入れ、実施した。

安全行動調査結果を基に「私のウィークポイント」とそれに対する各個人の安全宣言をグループごとに一覧表にし、各人が相互に特性を認識することにより、安全行動の実践に役立てた（各グループの作業責任者にまとめさせ、日々の業務における危険予知活動等に活用した）（別紙3）。

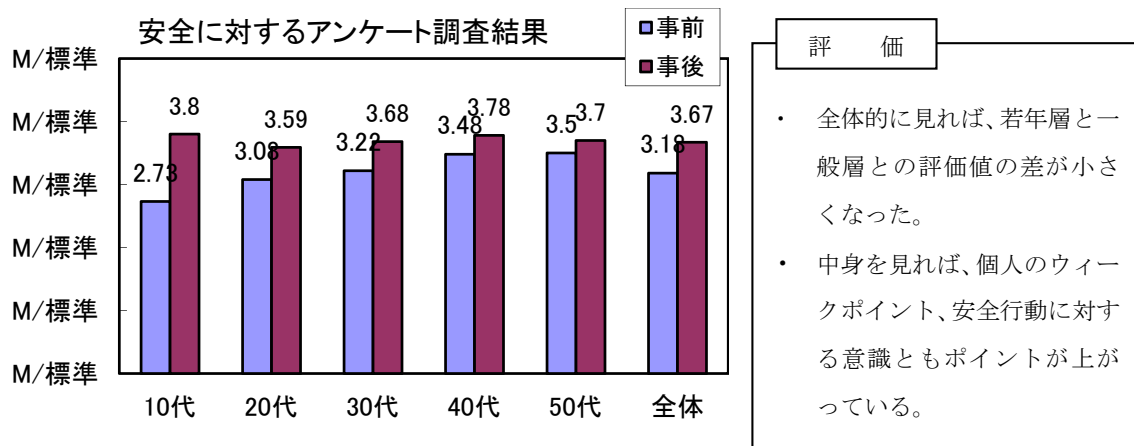
イ 自己管理チェックリストによる自己診断

自己管理チェックシート（別紙4）を作成し、安全行動調査結果を基に作業安全と交通安全について個人宣言を行い、自己評価した。

また、活性度項目については、健康（衛生面）・整理整頓・提案活動等について各個人が目標を立て自己診断を実施した。

6 安全行動調査結果の活用効果

安全行動調査アンケート後の効果を確認するために、再度、「安全に対するアンケート」調査を実施した。



この結果、個人安全宣言、自己管理チェックリストによる計画的、かつ、継続的な取組により安全に対する意識向上が図られ、危険感受性が向上した、と認められた。

## 7 今後の展開

- (1) 個人安全宣言、自己管理チェックリスト等については、毎年の強調運動時期に継続していく。
- (2) 今回の安全行動調査の結果を基に、他課への水平展開を図っていく。

最後に、安全活動に特效薬はない。継続こそが力であると考え。今回の安全行動調査により新たな取組が実施できた。今後も本調査を活用し、安全活動の維持と更なる向上を目指していく。

別紙 1

昨年度の上位方針	今年度の取組						取組概要	昨年度の評価	今年度の課題
作業員自らによる安全に対する能力向上への取組 ・ 直営工事機会をとらまえ、作業・訓練を通じて危険感受性を向上させる。 ・ 各所が工夫し、危険要因に対する危険予知活動を実施する。	危険感受性を向上させる実施項目	A課	B課	C課	D課	評価	その日の作業内容から、洗い出した危険要素に対する対策を作業員全員に周知し、安全作業の徹底を図り危険感受性の向上を図った。  毎日実施することにより安全に対する意識の高揚が図れた。	・ あらゆる場面で、危険予知・ハットヒヤリ提言等の充実を図り、作業員の危険感受性向上の取組を行ったが、作業におけるヒューマンエラーは、作業員自らの意識(感受性)向上が不可欠であると考ええる。 ・ 昨年度は作業での災害は発生していないが、車両における災害が2件も発生した。この事から作業における危険感受性(各作業員)をさらに充実させ、育成する必要がある。	「自分自身を自らで守る」危険感受性の育成 1) 作業員自らの危険感受性をさらに向上させるための方策の検討。 ・ 各個人、安全に対する特性(危険感受性)を把握する方策の検討と実施。 ・ 個人の特性を定量的に認識した安全活動の計画的な実施。
	日常業務における危険予知活動の充実。	☆		☆		○			
	直営工事・作業訓練時、危険要素に対する危険予知活動を実施し、「危険感受性」を向上させる。	☆	☆	☆	☆	○			
	朝の MT 時輪番制で一言提言を実施する			☆		○			
	過去の災害事例等を考慮した作業手配の実施。			☆		○			
現場出勤時におけるヒヤリハット体験有無の確認とフォローの実施。		☆			○	凡例 ☆：関連課	凡例 ○：できた ×：できなかった		

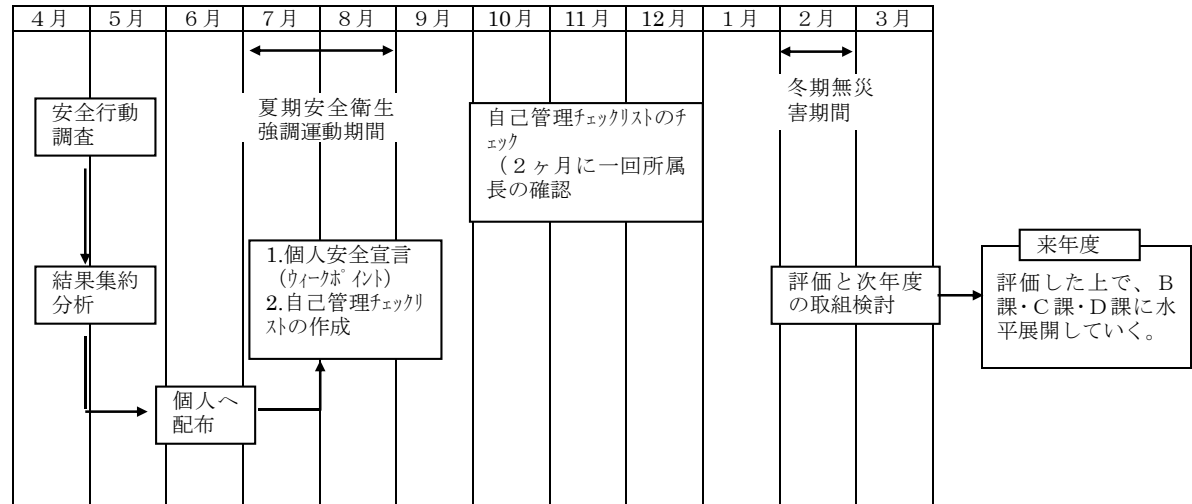
今年度危険感受性を育成する取組

**実施項目**  
安全管理活動の質的向上。

**展開方策**  
作業員自らによる安全に対する能力向上への取組。  
[危険感受性の育成、向上]  
1) 各個人、安全に対する特性(危険感受性)の把握。  
2) 個人の特性を定量的に認識した安全活動の計画的な取組。

**内容**  
1) 各作業員に対し「安全行動調査」(中央労働災害防止協会)により、安全に対する危険感受性を把握、分析。  
2) 把握、分析した内容により各作業員は①個人安全宣言②自己管理チェックリストを作成し、直営工事、研修、TBM、KYT 等に活用し、危険感受性を育成していく。  
☆今年度はA課で試行。結果を評価した上で来年度以降、B課・C課・D課へ水平展開していく。

取組のスケジュール



## 別紙2

## 安全に対するアンケート

## [目的]

・今年度、課員対象に「安全行動調査」(中央労働災害防止協会)を実施するが、事前に「安全に対するアンケート」(課独自)を実施し、比較することにより、自分の感じている意識・行動等のウィークポイントを明確にするものである。

年齢区分に○を書いて下さい 10代 (20代) (30代) (40代) 50代

☆アンケートは全て5段階評価です。該当する番号に○を書いて下さい

Q1 安全に対する意識について

5 4 3 2 1  
 高い ←————→ 低い

Q6 度忘れは多いか

5 4 3 2 1  
 高い ←————→ 低い

Q2 作業する時は安全第一でしているのか

5 4 3 2 1  
 高い ←————→ 低い

Q7 物忘れは多いか

5 4 3 2 1  
 高い ←————→ 低い

Q3 時々安全に対して手を抜いてしまうか

5 4 3 2 1  
 高い ←————→ 低い

Q8 聞き違い、見落としは多いか

5 4 3 2 1  
 高い ←————→ 低い

Q4 安全確認は確実にしているか

5 4 3 2 1  
 高い ←————→ 低い

Q9 自分にあわてものだと思う

5 4 3 2 1  
 高い ←————→ 低い

Q5 勘違いは多いか

5 4 3 2 1  
 高い ←————→ 低い

Q10 気が短いと思う

5 4 3 2 1  
 高い ←————→ 低い

[安全に対するご意見・要望があれば何なりと書いてください]

☆アンケートのご協力ありがとうございました。

## 個人安全宣言

工事 グループ

氏名	私のウィークポイント	安全宣言
A	・ 勘違いしやすい。	・ 復唱・復命・指差呼称を励行する
B	・ 感情的になりやすい。	・ 作業着手前に深呼吸をし気持ちを落ち着かす。
C	・ 自己制御力が弱い。	・ 作業に掛かる前に一呼吸入れたり、深呼吸をする。
D	・ 思い込みが激しい。	・ 次の事を考えながら今の作業をする。
E	・ 一つの事に集中し過ぎる。	・ 作業着手前に周囲の状況を把握し、作業内容も把握する。
F	・ 情報を正確に受け止めることが不得意。	・ 自問確認自答を確実に行う。

## 自己管理チェックリスト

氏名

項目		7月		8月			
		目標	評価	目標	評価		
個人宣言	作業 作業前の確認の確実実施	5	5	5	5		
	交通 常にリラックスした運転	5	4	5	5		
活性化項目	健康(心身)管理	5:健康~3:普通~1:不健康		5	3	5	5
	安全作業	5:安全~3:普通~1:不安全		5	5	5	5
	安全運転	5:安全~3:普通~1:不安全		5	4	5	4
	整理整頓	5:美しい~3:普通~1:汚い		4	2	4	3
	提案件数	提案目標件数		3	3	3	3
コメント欄	本人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整理整頓について、目標を下回った。不要な帳票は捨てることと、レコネの実施により整理整頓していく。</li> <li>・ 健康については、7月㊦に掛かってしまった。</li> </ul>					
	係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レコネについては、都度実施して管理すること。</li> </ul>					

	課 長	・疲れは十分な睡眠により解消する事と、暴飲はしないこと。
--	-----	------------------------------

---

**ヒューマンエラー対策事例集 ～安全行動調査の活用～**

〒108-0014

東京都港区芝5-35-2

中央労働災害防止協会

電話 03-3452-6841 (代)

2009

---